

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:
Hiromi Hoshino et al

Art Unit: N/A

Application No.: Not Yet Assigned

Filed: March 26, 2004

For: META-DATA DISPLAY SYSTEM, META-
DATA SYNTHESIS APPARATUS, VIDEO-
SIGNAL RECORDING/REPRODUCTION
APPARATUS, IMAGING APPARATUS AND
META-DATA DISPLAY METHOD

CLAIM FOR PRIORITY AND SUBMISSION OF DOCUMENTS

MS Patent Application
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:


Applicant hereby claims priority under 35 U.S.C. 119 based on the following prior foreign application filed in the following foreign country on the date indicated:

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Date</u>
Japan	P2003-101837	April 4, 2003

In support of this claim, a certified copy of the said original foreign application is filed herewith.

Dated: March 26, 2004

Respectfully submitted,

By  *Robert S. Grauer*
Ronald P. Kananen *Reg. No. 41,800*

Registration No.: 24,104

Rader, Fishman & Grauer PLLC
Suite 501
1233 20th Street, N.W.
Washington, D.C. 20036
Telephone: (202) 955-3750
Facsimile: (202) 955-3751
Customer No.: 23353



504P0444US00

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

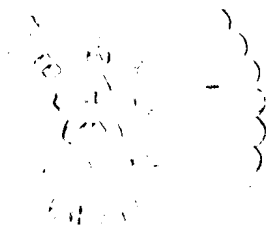
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 4 月 4 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 0 1 8 3 7
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 0 1 8 3 7]

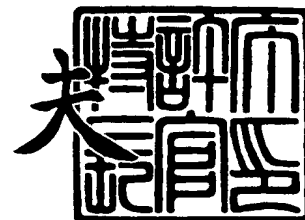
出 願 人 ソニー株式会社
Applicant(s):



2 0 0 4 年 2 月 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 0 5 3 4 5

【書類名】 特許願

【整理番号】 0390236405

【提出日】 平成15年 4月 4日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 H04N 5/76
H04N 5/278

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 星野 弘美

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 中島 史夫

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】

【識別番号】 100095957

【弁理士】

【氏名又は名称】 亀谷 美明

【電話番号】 03-5919-3808

【選任した代理人】

【識別番号】 100096389

【弁理士】

【氏名又は名称】 金本 哲男

【電話番号】 03-3226-6631



【選任した代理人】

【識別番号】 100101557

【弁理士】

【氏名又は名称】 萩原 康司

【電話番号】 03-3226-6631

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 040224

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0012374

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 メタデータ表示システム, メタデータ合成装置, 映像信号記録再生装置, 撮像装置, メタデータ表示方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータを表示するメタデータ表示システムであって:

前記メタデータがフレーム単位で付加された前記映像信号から, 前記メタデータの少なくとも一部を抽出して, 前記映像信号に合成し,

前記メタデータが合成された前記映像信号を, 表示装置に表示することを特徴とする, メタデータ表示システム。

【請求項2】 前記表示装置は, 前記撮像装置に設けられることを特徴とする, 請求項1に記載のメタデータ表示システム。

【請求項3】 前記映像信号に付加された前記メタデータは, 前記撮像装置が撮影するシーンに関連するメタデータであるシーン情報メタデータを含むことを特徴とする, 請求項1に記載のメタデータ表示システム。

【請求項4】 前記映像信号に付加された前記メタデータは, 前記メタデータの利用目的に応じて, 1 または 2 以上のメタデータグループにグループ化されていることを特徴とする, 請求項1に記載のメタデータ表示システム。

【請求項5】 前記メタデータ表示システムは,
前記メタデータが付加された前記映像信号を, 記憶媒体に対して記録・再生する映像信号記録再生装置を備えており,

前記映像信号記録再生装置によって再生された前記映像信号から, 前記メタデータの少なくとも一部を抽出して, 前記再生された映像信号に合成することを特徴とする, 請求項1に記載のメタデータ表示システム。

【請求項6】 撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータがフレーム単位で付加された前記映像信号から, 前記メタデータの少なくとも一部を抽出して, 前記映像信号に合成することを特徴とする, メタデータ合成装置。

【請求項7】 前記メタデータが合成された前記映像信号を, 前記撮像装置に送信することを特徴とする, 請求項6に記載のメタデータ合成装置。

【請求項 8】 前記メタデータは、前記撮像装置が撮影するシーンに関連するメタデータであるシーン情報メタデータを含むことを特徴とする、請求項 6 に記載のメタデータ合成装置。

【請求項 9】 前記映像信号に付加された前記メタデータは、前記メタデータの利用目的に応じて、1 または 2 以上のメタデータグループにグループ化されていることを特徴とする、請求項 6 に記載のメタデータ合成装置。

【請求項 10】 撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータがフレーム単位で付加された前記映像信号を、記憶媒体に対して記録・再生する記録再生部と；

前記メタデータがフレーム単位で付加された前記映像信号から、前記メタデータの少なくとも一部を抽出して、前記映像信号に合成する、メタデータ合成装置と；

を備えることを特徴とする、映像信号記録再生装置。

【請求項 11】 前記映像信号に付加された前記メタデータは、前記メタデータの利用目的に応じて、1 または 2 以上のメタデータグループにグループ化されていることを特徴とする、請求項 10 に記載の映像信号記録再生装置。

【請求項 12】 前記メタデータ合成装置は、

前記記録再生部によって前記記憶媒体から再生された前記映像信号から、前記メタデータの少なくとも一部を抽出して、前記再生された映像信号に合成することを特徴とする、請求項 10 に記載の映像信号記録再生装置。

【請求項 13】 被写体を撮像して映像信号を生成する撮像部と、前記映像信号を表示する表示部と、を備えた撮像装置であって；

前記映像信号に関連するメタデータがフレーム単位で付加された前記映像信号から、前記メタデータの少なくとも一部を抽出して、前記映像信号に合成する、メタデータ合成装置、と接続されており、

前記メタデータ合成装置から、前記メタデータが合成された前記映像信号を受信して、前記表示部に表示することを特徴とする、撮像装置。

【請求項 14】 撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータを表示するメタデータ表示方法であって：

前記メタデータがフレーム単位で付加された前記映像信号から、前記メタデータの少なくとも一部を抽出して、前記映像信号に合成し、

前記メタデータが合成された前記映像信号を、表示装置に表示することを特徴とする、メタデータ表示方法。

【請求項 15】 前記表示装置は、前記撮像装置に設けられることを特徴とする、請求項 14 に記載のメタデータ表示方法。

【請求項 16】 前記映像信号に付加された前記メタデータは、前記撮像装置が撮影するシーンに関連するメタデータであるシーン情報メタデータを含むことを特徴とする、請求項 14 に記載のメタデータ表示方法。

【請求項 17】 前記映像信号に付加された前記メタデータは、前記メタデータの利用目的に応じて、1 または 2 以上のメタデータグループにグループ化されていることを特徴とする、請求項 14 に記載のメタデータ表示方法。

【請求項 18】 前記メタデータ表示方法は、
前記メタデータが付加された前記映像信号を記録した記憶媒体から前記映像信号を再生し、前記再生された映像信号から、前記メタデータの少なくとも一部を抽出して、前記再生された映像信号に合成することを特徴とする、請求項 14 に記載のメタデータ表示方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、撮影した映像信号に関連するメタデータを表示するメタデータ表示システム、メタデータ合成装置、映像信号記録再生装置、撮像装置、メタデータ表示方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、映画、TV番組などの映像作品の制作分野では、撮影した映像素材に関するメタデータの有効活用が進められている。この映像素材に関するメタデータとしては、例えば、撮影した映像素材のシーン番号、テイク番号、タイムコードなどの映像素材の属性を表すシーン情報メタデータがある。このシーン情報メタ

データは、例えば、撮影現場などにおいて、カメラマンやディレクタ等が、撮影中あるいは撮影完了した映像素材を識別・管理する上で有用な情報である。

【0 0 0 3】

従来では、かかるシーン情報メタデータは、電子カチンコ等に電子的または手書きで表示されていた。このようにしてシーン情報メタデータを表示した電子カチンコを、撮影開始または終了時点で撮像装置の前に提示して撮影することにより、当該シーン情報メタデータを映像素材の前後に直接差し込んで、映像データとして記録していた（例えば、特許文献 1 参照）。

【0 0 0 4】

しかし、クレーンを使った撮影や、ステディカムを用いた撮影などでは、上記電子カチンコを撮像装置の前に直接提示することができない場合もある。このような場合には、電子カチンコが出力するタイムコードに応じて撮影を行って映像素材を記憶媒体に記録する一方、上記シーン情報メタデータを映像素材とは別にパーソナルコンピュータ等の端末に入力して、タイムコードとともに記録していた。

【0 0 0 5】

【特許文献 1】

特開平 9 - 4 6 6 2 7 号公報

【0 0 0 6】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来のようなメタデータの記録方法では、撮影現場において、上記シーン情報メタデータ等を、映像素材とともに同期させて表示することができないという問題があった。具体的には、電子カチンコの表示内容を映像に差し込む手法では、撮影した映像素材の前後にしかメタデータが記録されていなかった。また、メタデータと映像素材とを別々に記録する手法では、撮影した映像素材を再生しても、シーン情報メタデータ等が表示されることはなかった。

【0 0 0 7】

このため、カメラマン等は、映像素材の撮影収録中あるいは収録後に、当該映像素材に関するメタデータを、当該映像素材とともに確認することができなかつ

た。このため、撮影内容を把握したり、撮影した映像素材をチェックしたりする上で、非常に不便であった。

【0008】

本発明は、上記問題点に鑑みてなされたものであり、本発明の目的は、撮影した映像素材に関連するメタデータを、当該映像素材とともに同期させて表示することが可能な、新規かつ改良されたメタデータ表示システム、メタデータ表示方法等を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、本発明の第1の観点によれば、撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータを表示するメタデータ表示システムが提供される。このメタデータ表示システムは、メタデータがフレーム単位で付加された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、映像信号に合成し、メタデータが合成された映像信号を、表示装置に表示することを特徴とする。

【0010】

かかる構成により、当該映像信号にフレーム単位で付加されているメタデータから少なくとも一部を抽出して、映像データに変換し、当該映像信号に対してフレーム単位で多重することができる。このようにしてメタデータが合成された映像信号は、表示装置に提供される。このため、表示装置は、撮像装置によって撮影された映像に同期させて、対応するメタデータを同時に表示することができる。従って、カメラマンやディレクタ等は、収録中あるいは収録後に、映像とともにメタデータを閲覧して、撮影内容の把握、映像の確認等を行うことができる。

【0011】

また、上記表示装置は、撮像装置に設けられる、ように構成してもよい。かかる構成により、メタデータが合成された映像信号は、撮像装置に提供される。このため、撮像装置が具備するビューファインダー等の表示装置に、撮影された映像とともに、当該映像に対応するメタデータを同時に表示させることができる。

【0012】

また、上記映像信号に付加されたメタデータは、撮像装置が撮影するシーンに

関連するメタデータであるシーン情報メタデータを含む，ように構成してもよい。かかる構成により，従来では電子カチンコ等に表示されていた情報を含むシーン情報メタデータを，電子カチンコを使うことなく，映像とともに表示することができる。

【0 0 1 3】

また，上記映像信号に付加されたメタデータは，メタデータの利用目的に応じて，1または2以上のメタデータグループにグループ化されている，ように構成してもよい。かかる構成により，映像信号に付加されているメタデータから，必要なメタデータをメタデータグループ単位で抽出して，表示装置に表示させることができる。このため，利用目的に応じたメタデータグループのみのモニタリングが常に可能となる。

【0 0 1 4】

また，上記メタデータグループは，撮像装置が撮影するシーンに関連する情報を含むシーン情報グループ，撮像装置の設定情報を含むカメラ設定グループ，撮像装置が備えるレンズ装置の設定情報を含むレンズ設定グループ，または撮像装置が備えるドリー装置の設定情報を含むドリー設定グループの少なくともいずれかを含む，ように構成してもよい。

【0 0 1 5】

また，上記映像信号に付加されたメタデータグループには，固有のグループ識別情報が付与されている，ように構成してもよい。かかる構成により，グループ識別情報に基づいて，いずれのメタデータグループであるかを識別することができるので，メタデータグループ単位での抽出処理を迅速に行うことができる。

【0 0 1 6】

また，上記映像信号に付加されたメタデータグループには，メタデータグループのデータ量情報が付与されている，ように構成してもよい。かかる構成により，あるメタデータグループのメタデータの抽出処理を実行するに際し，データ量情報に基づいて，予め，当該メタデータグループ内のメタデータ量を把握することができる。このため，メタデータグループ単位での抽出処理を迅速に行うことができる。

【0017】

また、上記メタデータ表示システムは、メタデータが付加された映像信号を、記憶媒体に対して記録・再生する映像信号記録再生装置を備えており、映像信号記録再生装置によって再生された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、再生された映像信号に合成する、ように構成してもよい。かかる構成により、撮像装置によって生成され、メタデータがフレーム単位で付加された映像信号を、映像信号記録再生装置によって記憶媒体に記録して、収録できる。さらに、映像信号記録再生装置によって記憶媒体から当該映像信号を再生し、この再生された映像信号からメタデータを抽出して合成することにより、収録後にも、映像とともにメタデータを表示することができる。

【0018】

また、上記課題を解決するため、本発明の別の観点によれば、撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータがフレーム単位で付加された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、映像信号に合成することを特徴とする、メタデータ合成装置が提供される。

【0019】

かかる構成により、当該映像信号にフレーム単位で付加されているメタデータから少なくとも一部を抽出して、映像データに変換し、当該映像信号に対してフレーム単位で多重することができる。このため、上記メタデータ表示システムを好適に実現するために必要なメタデータ合成装置を提供することができる。

【0020】

また、上記メタデータが合成された映像信号を、撮像装置に送信する、ように構成してもよい。かかる構成により、メタデータ合成装置は、撮像装置に対して当該映像信号をリターン映像として戻すことができる。これにより、撮像装置の表示装置は当該映像信号を表示することができる。

【0021】

また、上記メタデータは、撮像装置が撮影するシーンに関連するメタデータであるシーン情報メタデータを含む、ように構成してもよい。かかる構成により、メタデータ合成装置は、従来では電子カチンコ等に表示されていた情報を含むシ

ン情報メタデータを抽出して、映像信号に合成することができる。

【0022】

また、上記映像信号に付加されたメタデータは、メタデータの利用目的に応じて、1または2以上のメタデータグループにグループ化されている、ように構成してもよい。かかる構成により、メタデータ合成装置は、必要なメタデータをメタデータグループ単位で迅速かつ容易に抽出することができる。

【0023】

また、上記課題を解決するため、本発明の別の観点によれば、撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータがフレーム単位で付加された映像信号を、記憶媒体に対して記録・再生する記録再生部と；メタデータがフレーム単位で付加された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、映像信号に合成する、メタデータ合成装置と；を備えることを特徴とする、映像信号記録再生装置が提供される。かかる構成により、上記メタデータ合成装置を備えた映像信号記録再生装置を提供できる。

【0024】

また、映像信号記録再生装置が備えたメタデータ合成装置は、記録再生部によって記憶媒体から再生された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、再生された映像信号に合成するように構成してもよい。これにより、一旦収録した映像を再生して、メタデータを合成することができる。

【0025】

また、上記課題を解決するため、本発明の別の観点によれば、被写体を撮像して映像信号を生成する撮像部と、映像信号を表示する表示部と、を備えた撮像装置が提供される。この撮像装置は、映像信号に関連するメタデータがフレーム単位で付加された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、映像信号に合成する、メタデータ合成装置、と接続されており；メタデータ合成装置から、メタデータが合成された映像信号を受信して、表示部に表示することを特徴とする。

【0026】

かかる構成により、撮像装置は、メタデータ合成装置によってメタデータが合

成された映像信号を、自身が生成した映像信号のリターン映像として受信できる。これにより、撮像装置は、生成した映像信号にメタデータを多重して表示できる。

【0 0 2 7】

また、上記課題を解決するため、本発明の別の観点によれば、撮像装置が生成した映像信号に関連するメタデータを表示するメタデータ表示方法が提供される。このメタデータ表示方法は、メタデータがフレーム単位で付加された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、映像信号に合成し、メタデータが合成された映像信号を、表示装置に表示することを特徴とする。

【0 0 2 8】

また、上記表示装置は、撮像装置に設けられる、ようにしてもよい。また、上記映像信号に付加されたメタデータは、撮像装置が撮影するシーンに関連するメタデータであるシーン情報メタデータを含む、ようにしてもよい。また、上記映像信号に付加されたメタデータは、メタデータの利用目的に応じて、1または2以上のメタデータグループにグループ化されている、ようにしてもよい。

【0 0 2 9】

また、上記メタデータ表示方法は、メタデータが付加された映像信号を記録した記憶媒体から映像信号を再生し、再生された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、再生された映像信号に合成する、ようにしてもよい。

【0 0 3 0】

【発明の実施の形態】

以下に添付図面を参照しながら、本発明の好適な実施の形態について詳細に説明する。なお、本明細書及び図面において、実質的に同一の機能構成を有する構成要素については、同一の符号を付することにより重複説明を省略する。

【0 0 3 1】

（第1の実施の形態）

以下に、本発明の第1の実施の形態にかかるメタデータ表示システム、メタデータ合成装置、映像信号記録再生装置、撮像装置、メタデータ表示方法等について説明する。

【0032】**<1. システム構成>**

まず、本実施形態にかかるメタデータ表示システムの概要について説明する。本実施形態にかかるメタデータ表示システムは、例えば、映像素材を撮影して収録するための映像記録システムとして構成されている。 **【0033】** この映像記録システムは、例えば、テレビ放送局や、ビデオコンテンツ、映画等の制作会社などが、TV番組、ビデオコンテンツ、映画などの映像作品を制作するためのシステムであり、例えば、撮影現場（撮影スタジオ、ロケ現場等）に設けられ、映像作品を構成する映像素材の映像コンテンツデータを撮影・収録することができる。この映像コンテンツデータは、例えば、映像データ及び／又は音声データから構成されるコンテンツデータである。このうち映像データは、一般的には、例えば、動画像データであるが、図画、写真または絵画などの静止画像データを含むようにしてもよい。

【0034】

また、この映像記録システムは、例えば、撮影した映像素材に関連する各種のメタデータを生成することができる。さらに、映像記録システムは、例えば、かかるメタデータをグループ化した上で、映像素材を構成する映像信号に対してフレームごとに付加して、映像信号とともに記憶媒体に記録することができる。なお、このメタデータは、例えば、上記映像素材の概要、属性または撮影機器の設定等を表す上位データであり、映像素材のインデックス情報や、撮影条件等を特定する情報などとして機能するが、詳細については後述する。

【0035】

このような映像記録システムとして構成されたメタデータ表示システムは、上記メタデータが付加された映像信号からメタデータを抽出して、元の映像信号に映像データとして合成することができる。さらに、メタデータ表示システムは、このようにしてメタデータが合成された映像信号を、撮像装置の表示部に表示できることを特徴とする。

【0036】

次に、図1に基づいて、本実施形態にかかるメタデータ表示システムの全体構

成について説明する。なお、図 1 は、本実施形態にかかるメタデータ表示システム 1 の概略的な構成を示すブロック図である。

【0037】

図 1 に示すように、本実施形態にかかるメタデータ表示システム 1 は、例えば、撮像装置 10 と、集音装置 18 と、カメラコントロールユニット（以下では、CCU という。）20 と、メタデータ入力用端末装置 30 と、メタデータ付加装置 40 と、ビデオテープレコーダ（以下では、VTR という。）50 と、メタデータ合成装置 60 と、表示装置 70 と、から主に構成されている。

【0038】

撮像装置 10 は、例えば、レンズ装置 12 に入射した光学像を電気信号に変換するビデオカメラなどであり、被写体を撮像して映像信号を生成・出力することができる。この撮像装置 10 は、映像作品を構成する各場面（シーン）を撮影し、生成した映像信号を、例えば CCU 20 に出力することができる。この映像信号は、例えば、プログレッシブ方式またはインターレース方式のいずれの方式で生成されてもよい。

【0039】

なお、本実施形態では、撮像装置 10 から CCU 20 への映像信号の伝送は、例えば光ファイバケーブル等を介して光信号としてなされる。このように光信号として映像信号を伝送することにより、HD SDI (High Definition Serial Digital Interface) 形式で伝送する場合（例えば 50 m 程度）と比べて、長距離伝送（例えば 1 km 程度）が可能になる。このため、撮像装置 10 と、CCU 20 および VTR 50 等とを十分に離隔して配設することができるので、撮影の自由度が高まる。しかし、かかる例に限定されず、撮像装置 10 は、例えば、HD SDI ケーブル等で映像信号を伝送してもよい。この場合には、例えば、CCU 20 を設けずに、撮像装置 10 からメタデータ付加装置 40 等に直接、映像信号を伝送してもよい。

【0040】

また、撮像装置 10 は、例えば、上記撮影時における、撮像装置 10 内の各種の設定情報（シャッタースピード、ゲイン等の撮影条件情報）を収集し、これらの

設定情報を基にカメラ設定メタデータを生成することができる。さらに、撮像装置 10 は、例えば、このカメラ設定メタデータをカメラ設定グループとしてグループ化してパッキングした上で、上記映像信号の 1 フレーム毎に付加することができるが、詳細については後述する。

【0041】

さらに、この撮像装置 10 には、例えば、後述するメタデータ合成装置から CPU 20 を介して、リターン映像信号（詳細は後述する。）が入力される。撮像装置 10 は、例えば、このリターン映像信号を表示部 108 に表示することができる。この表示部 108 は、本実施形態にかかるメタデータが合成された映像信号を表示する表示装置の一つとして構成されているが、詳細は後述する。

【0042】

また、かかる撮像装置 10 は、例えば、レンズ装置 12 と、ドーリ装置 14 とを具備している。

【0043】

レンズ装置 12 は、例えば、複数枚のレンズと、これらレンズの距離、絞り等を調整する駆動装置とから構成されており、ズーム、アイリス、フォーカス等を調整して、撮像装置 10 本体に好適な光学像を入射させることができる。このレンズ装置 12 は、例えば、撮影時におけるレンズ装置 12 内の各種の設定情報（ズーム、アイリス、フォーカス等の撮影条件情報）を、レンズ設定メタデータとして 1 フレーム毎に生成することができる。

【0044】

ドーリ（dolly）装置 14 は、撮像装置 10 本体を載置して移動させるための台車であり、例えば、撮像装置 10 を被写体に接近させたり遠ざけたりして撮影する場合や、移動する被写体とともに撮像装置 10 を移動させて撮影する場合などに用いられる。このドーリ装置 14 は、例えば、その下部に設けられた滑車をレール上に載置することにより、被写体等に沿って高速移動することができる。かかるドーリ装置 14 は、例えば、撮影時におけるドーリ装置 14 内の各種の設定情報（ドーリの位置、カメラの向き等の撮影条件情報）を、ドーリ設定メタデータとして 1 フレーム毎に生成することができる。なお、このドーリ装置 1

4 は、必ずしも設けられなくてもよく、例えば、上方から撮影するためクレーン等に撮像装置 1 0 を設置する場合や、カメラマンが撮像装置 1 0 を担いで撮影する場合などには、不要である。

【 0 0 4 5 】

上記のようにして生成されたレンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータは、例えば、RS-232C ケーブルなどを介してメタデータ付加装置 4 0 に出力される。

【 0 0 4 6 】

集音装置 1 8 は、例えば、マイクロフォンなどで構成されており、音声信号を生成・出力することができる。より詳細には、この集音装置 1 8 は、上記撮像装置 1 0 による撮影時における、背景音や俳優の発声音などの音声情報を集音して、音声信号を生成する。この音声信号は、例えば VTR 5 0 に出力される。なお、この集音装置 1 8 は、撮像装置 1 0 が具備してもよい、

【 0 0 4 7 】

CCU 2 0 は、例えば、撮影装置 1 0 から光信号として入力された映像信号を、HD SDI 用の信号に変換して、HD SDI ケーブルを介してメタデータ付加装置 4 0 に出力することができる。また、CCU 2 0 は、例えば、当該映像信号から光ファイバケーブル等を介してカメラ設定メタデータを取得することもできる。また、この CCU 2 0 は、例えば、後述するメタデータ合成装置 6 0 からリターン映像信号が入力されると、かかるリターン映像信号を撮像装置 1 0 に出力することもできる。

【 0 0 4 8 】

なお、この CCU 2 0 は、必ずしも、撮像装置 1 0 とは別体に構成された装置として設けられなくともよく、例えば、撮像装置 1 0 に内蔵されてもよい。特に、例えば、撮像装置 1 0 が映像信号を例えば HD SDI 形式で出力するように構成した場合には、この CCU 2 0 は必須の装置ではない。

【 0 0 4 9 】

メタデータ入力用端末装置 3 0 は、例えば、パーソナルコンピュータなどの情報処理装置及びその周辺装置などで構成されており、ユーザ入力に基づいて、シ

ーン情報メタデータを生成することができる。このシーン情報メタデータは、例えば、撮像装置 1 0 が撮影するシーンに関するメタデータであり、従来の撮影において電子カチンコ等に記載されていた情報（シーン番号、テイク番号等）などである。かかるメタデータ入力用端末装置 3 0 は、例えば、ディレクタ等によってこれから撮影しようとするシーンのシーン番号等が入力されると、これに対応するシーン情報メタデータを生成し、R S - 2 3 2 C ケーブルなどを介してメタデータ付加装置 4 0 に出力する。なお、カメラマンまたはディレクタ等は、このメタデータ入力用端末装置 3 0 を利用して、例えば、映像素材の収録時におけるコメント（撮影状況のメモ書き等）を、シーン状況メタデータとして追加入力することもできる。

【0 0 5 0】

メタデータ付加装置 4 0 は、例えば、映像信号に対してフレーム単位で上記メタデータを付加することができる。より詳細には、メタデータ付加装置 4 0 には、例えば、上記レンズ装置 1 2、ドーリ装置 1 4 およびメタデータ入力用端末装置 3 0 などから、それぞれ、レンズ設定メタデータ、ドーリ設定メタデータ、シーン情報メタデータなどが入力される。メタデータ付加装置 4 0 は、例えば、これらのメタデータを、その利用目的ごとに、レンズ設定グループ、ドーリ設定グループ、シーン情報グループなどといった複数のメタデータグループにグループ化して、パッキングする。さらに、メタデータ付加装置 4 0 は、例えば、このようにグループ化したレンズ設定グループ、ドーリ設定グループおよびシーン情報グループのメタデータを、C C U 2 0 から入力された映像信号のブランキング領域に 1 フレーム毎に順次、挿入して付加することができる。このようにして、全てのメタデータが付加された映像信号は、例えば、H D S D I ケーブル等を介して V T R 5 0 に出力される。

【0 0 5 1】

なお、このメタデータ付加装置 4 0 には、リファレンス信号生成装置 7 2 からリファレンス信号（基準同期信号）が入力され、タイムコード信号生成装置 7 4 からタイムコード信号（L T C : l i n e a r T i m e C o d e）が入力されている。また、かかる L T C を V T R 5 0 に出力することもできる。

【0052】

VTR50は、本実施形態にかかる映像信号記録再生装置として構成されており、例えば、上記メタデータ付加装置40から入力された映像信号や、集音装置18から入力された音声信号を、ビデオテープ52等の記憶媒体に記録することができる。また、このVTR50は、ビデオテープ52に記録されている映像信号等を再生することもできる。また、このVTR50は、例えば、メタデータ付加装置40から入力された映像信号をそのままメタデータ合成装置60に出力する、あるいは、ビデオテープ52から再生した映像信号をメタデータ合成装置60に出力することができる。

【0053】

なお、本実施形態では、記憶媒体としてビデオテープ52を用いているが、かかる例に限定されず、例えば、各種の磁気テープ、磁気ディスク、光ディスク、メモリーカード等の任意の記憶媒体であってもよい。また、映像信号記録再生装置は、上記VTR50の例に限定されず、このような各種の記憶媒体に対応した装置（ディスク装置、各種リーダライタ等）に変更することもできる。

【0054】

メタデータ合成装置60は、本実施形態にかかる特徴的な装置であり、例えば、上記のように映像信号に付加されているメタデータを抽出、デコードして、当該映像信号に合成するデコーダ装置である。より詳細には、このメタデータ合成装置60は、例えば、VTR50から入力された映像信号に付加されているメタデータの全部または一部を、フレーム単位で抽出することができる。さらに、このメタデータ合成装置60は、抽出したメタデータをデコードして映像データに書き換えた上で、当該映像信号にフレーム単位で合成することができる。この合成とは、例えば、上記映像信号と、メタデータの映像データとを、例えばフレーム単位で多重（スーパーインポーズ等）することをいう。

【0055】

メタデータ合成装置60は、例えば、このようにしてメタデータが合成された映像信号（以下では、メタデータ合成映像信号という。）を、HD SDIケーブル等を介して、表示装置70、およびCCU20に出力することができる。こ

のうち、例えばCCU20を経由して撮像装置10に送信されるメタデータ合成映像信号は、例えば、リターン映像信号として機能する。このリターン映像信号は、上記VTR50等による映像信号の記録後に、メタデータ合成装置60から撮像装置10に戻される映像信号である。

【0056】

このようにメタデータ合成装置60は、例えば、モニタリング系統を分配して、メタデータ合成映像信号をリターン映像信号として撮像装置10に戻すことができる。これにより、撮像装置10は、受信したメタデータ合成映像信号に基づいて、メタデータがスーパーインポーズ等された映像を表示部108に表示することができる。

【0057】

表示装置70は、例えば、LCD(Liquid Crystal Display)、CRT(Cathode Ray Tube)などのディスプレイ装置である。この表示装置70は、上記メタデータ合成装置60から入力されたメタデータ合成映像信号に基づいて、メタデータがスーパーインポーズ等された映像を表示することができる。

【0058】

<2. メタデータの内容>

次に、本実施形態にかかるグループ化されたメタデータについて詳細に説明する。本実施形態では、例えば、上記のような映像素材に関連する多様なメタデータを、その利用目的等に応じて、例えば4つのメタデータグループにグループ分けして、伝送、記録、管理している。以下では、これら4つのメタデータグループごとに、そのメタデータグループに含まれるメタデータの内容について詳細に説明する。

【0059】

<2. 1 シーン情報グループ>

まず、図2に基づいて、シーン情報グループに含まれるシーン情報メタデータについて、具体例を挙げながら詳細に説明する。なお、図2は、本実施形態にかかるシーン情報グループに含まれるシーン情報メタデータの具体例を示す説明図

である。

【0060】

図2に示すように、シーン情報グループに含まれるシーン情報メタデータは、例えば、従来、電子カチンコ（スレート）等に表示されていた「タイムコード」、 「シーン番号」、 「テイク番号」などの情報をはじめとする、撮像装置10が撮影するシーンに関連する各種のメタデータである。

【0061】

・ 「タイムコード」は、LTCなどに代表される時間、分、秒、フレーム番号等からなる時間情報である。従来では、この「タイムコード」は、例えば、ビデオテープ52の音声トラックなどの長手方向に記録されていた。本実施形態では、この「タイムコード」は、タイムコード信号生成装置74によって生成され、例えば、上記メタデータ付加装置によって映像信号のブランキング領域に1フレーム毎に付される。このタイムコードによって、映像信号の位置を特定することができる。この「タイムコード」のデータ量は例えば16バイトである。

・ 「日付」は、撮影が行われた日付を表すテキスト情報であり、そのデータ量は例えば4バイトである。

・ 「映像作品題名」は、映像作品のタイトルを表すテキスト情報であり、そのデータ量は例えば30バイトである。

・ 「撮影チーム番号」は、当該撮影を担当している撮影チーム（クルー）を特定するためのID番号などであり、そのデータ量は例えば2バイトである。

・ 「シーン番号」は、映像作品を構成する複数のシーン（Scene；撮影場面）のうち、撮影が行われているシーンを特定するための番号などであり、そのデータ量は例えば2バイトである。この「シーン番号」を参照することにより、撮影された映像素材が、映像作品中のいかなるシーンに相当するものであるかを識別できる。なお、例えば、シーンをさらに細分化したカットの番号を、シーン情報メタデータとして追加することもできる。

・ 「テイク番号」は、撮像装置10による1回の記録開始から記録終了に至るまでの連続した映像単位であるテイク（Take）を特定するための番号であり、そのデータ量は例えば2バイトである。この「テイク番号」を参照することによ

り、記録されている映像信号が、いかなるシーンに属するいかなるテイクに相当するものであるかを識別できる。

- ・「ロール番号」は、上記テイクをさらに細分化した映像単位であるロール（R o l l）を特定するための番号であり、そのデータ量は例えば2バイトである。
- ・「カメラマン」、「ディレクタ」、「プロデューサ」は、それぞれ、撮影を担当したカメラマン名、ディレクタ名、プロデューサ名を表すテキスト情報であり、これらのデータ量はそれぞれ例えば16バイトである。

【0062】

このように、シーン情報グループには、例えば、収録された映像の属性情報やインデックス情報となりうるメタデータが集められている。このシーン情報メタデータは、例えば、映像収録段階、後処理段階および編集段階などで、その映像素材のコンテンツを把握し、映像素材を識別、管理する上で有用な情報となる。

【0063】

<2.2 カメラ設定グループ>

次に、図3に基づいて、カメラ設定グループに含まれるカメラ設定メタデータについて、具体例を挙げながら詳細に説明する。なお、図3は、本実施形態にかかるカメラ設定グループに含まれるカメラ設定メタデータの具体例を示す説明図である。

【0064】

図3に示すように、カメラ設定グループに含まれるカメラ設定メタデータは、例えば、映像を撮影したときの撮像装置10の設定情報をメインとする各種の撮影条件等を表すメタデータである。

【0065】

- ・「カメラID」は、撮影処理を行った撮像装置10を特定するためのシリアル番号（機器番号）であり、そのデータ量は例えば4バイトである。
- ・「CHUスイッチ ON/OFF」は、以下に説明するような、撮像装置10の設定を標準設定から変化させているか否かを表すビット情報であり、そのデータ量は例えば1バイトである。
- ・「CCU ID」は、撮影処理を行ったCCU20を特定するためのシリアル

番号（機器番号）であり、そのデータ量は例えば4バイトである。

- ・「フィルタ設定」は、撮影時における撮像装置10のフィルタの設定を表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。本実施形態では、例えば、撮像装置10が5種類のフィルタを2重に備えており、このうち、どのフィルタを2つ組み合わせて撮影したかを表している。

- ・「シャッタースピード」は、撮影時における撮像装置10のシャッタースピードの設置値を表す情報であり、そのデータ量は例えば1バイトである。本実施形態では、この「シャッタースピード」は、例えば、「1/100」～「1/2000」秒の間で、6段階に設定可能である。

- ・「ゲイン」は、撮影時における撮像装置10のゲインの設置値を表す情報であり、そのデータ量は例えば1バイトである。

- ・「ECS」は、撮影時における撮像装置10のECS（Extended Clear Scan）機能のON/OFFを表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。

- ・「ガンマ（マスター）」は、撮影時における撮像装置10のガンマ特性（ガンマカーブ等）の設定を表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。

- ・「ガンマ（ユーザ設定）」は、ユーザ設定によりガンマカーブ等を変化させた場合のガンマ特性の設定を表す情報であり、そのデータ量は例えば1バイトである。

- ・「バリアブルフレームレート」は、可変速撮影可能な撮像装置10によって撮影された映像信号のフレームレート設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば1バイトである。本実施形態にかかる撮像装置10は、例えば、23.98～30Pでフレームレートを変化させて撮影可能であるが、かかる例に限定されず、例えば1～60Pで可変速撮影できるように構成してもよい。

- ・「映像信号 白レベル」は、撮影時における撮像装置10のホワイトバランス調整処理による映像信号の白レベル設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば6バイトである。

- ・「映像信号 黒レベル」は、撮影時における撮像装置10のブラックバランス調整処理による映像信号の黒レベルの設定値を表す情報であり、そのデータ量は

例えば 8 バイトである。

- ・「ディテールレベル」は、撮影時における撮像装置 1 0 のディテール調整処理によるディテールレベルの設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば 2 バイトである。

- ・「ニーポイント」は、撮影時における撮像装置 1 0 のニー回路で圧縮される映像信号のニーポイントの設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば 2 バイトである。

- ・「ニースロープ」は、撮影時において撮像装置 1 0 のニー回路で圧縮される映像信号のニースロープの設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば 2 バイトである。

- ・「レコーダステータス」は、V T R 5 0 等の映像信号記録再生装置が映像信号を記録する際のフレームレートの設置値を表す情報であり、そのデータ量は例えば 1 バイトである。この「レコーダステータス」は、上記「バリエブルフレームレート」に対応して決定される。

【 0 0 6 6 】

このように、カメラ設定グループには、例えば、撮影時における撮像装置 1 0 の設定情報などの撮影条件に関するメタデータが集められている。このカメラ設定メタデータは、例えば、映像素材の後処理段階などで、その映像素材の画質（明度、色合い、質感等）などを把握する上で有用な情報となる。

【 0 0 6 7 】

< 2 . 3 レンズ設定グループ >

次に、図 4 に基づいて、レンズ設定グループに含まれるレンズ設定メタデータについて、具体例を挙げながら詳細に説明する。なお、図 4 は、本実施形態にかかるレンズ設定グループに含まれるレンズ設定メタデータの具体例を示す説明図である。

【 0 0 6 8 】

図 4 に示すように、レンズ設定グループに含まれるレンズ設定メタデータは、例えば、映像撮影時におけるレンズ装置 1 2 の設定情報をメインとする各種の撮影条件等を表すメタデータである。

【0069】

- ・「ズーム」は、撮影時におけるレンズ装置12の撮影倍率調整処理によるズーム設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。
- ・「フォーカス」は、撮影時におけるレンズ装置12の焦点距離調整処理によるフォーカス設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。
- ・「アイリス」は、撮影時におけるレンズ装置12の露光調整処理によるアイリス（絞り）設定値を表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。
- ・「レンズID」は、撮影に使われたレンズ装置12を特定するためのシリアル番号（機器番号）であり、そのデータ量は例えば4バイトである。

【0070】

このように、レンズ設定グループには、例えば、撮影時におけるレンズ装置12の設定情報などの撮影条件に関するメタデータが集められている。このレンズ設定メタデータは、例えば、映像素材の後処理段階などで、その映像素材で撮影されている被写体の動き、撮像装置10からの距離等を把握する上で有用な情報となる。

【0071】**<2.4 ドーリ設定グループ>**

次に、図5に基づいて、ドーリ設定グループに含まれるドーリ設定メタデータについて、具体例を挙げながら詳細に説明する。なお、図5は、本実施形態にかかるドーリ設定グループに含まれるカメラ設定メタデータの具体例を示す説明図である。

【0072】

図5に示すように、ドーリ設定グループに含まれるドーリ設定メタデータは、例えば、映像撮影時におけるドーリ装置14の設定情報をメインとする各種の撮影条件等を表すメタデータである。

- ・「GPS」は、撮影時におけるドーリ装置14の位置（即ち、撮像装置10の位置）を特定するための緯度および経度情報（Global Positioning System情報）であり、そのデータ量は例えば12バイトである。
- ・「移動方向」は、撮影時におけるドーリ装置14の移動方向（即ち、撮像装置

10の移動方向)をアングルで表す情報であり、そのデータ量は例えば4バイトである。

・「移動スピード」は、撮影時におけるドリー装置14の移動スピード(即ち、撮像装置10の移動スピード)を表す情報であり、そのデータ量は例えば4バイトである。

・「カメラ方向」は、撮像装置10の撮影方向を表す情報であり、固定されたドリー装置14を基準として、撮像装置10の回転角度(首を振った角度)で表現される。具体的には、例えば、撮像装置10の撮像方向を「パン(p a n)」(Z軸方向)、「チルト(t i l t)」(Y軸方向)、「ロール(r o l l)」(X軸方向)の3方向の回転角度で表す。これら3つのデータ量はそれぞれ例えば2バイトである。

・「ドリー高さ」は、ドリー装置14の高さを表す情報であり、そのデータ量は例えば2バイトである。この情報により、撮像装置10の垂直方向の位置が特定できる。

・「ドリーID」は、撮影に使われたドリー装置14を特定するためのシリアル番号(機器番号)であり、そのデータ量は例えば4バイトである。

【0073】

このように、ドリー設定グループには、例えば、撮影時におけるドリー装置14の位置、動き等の設定情報からなる撮影条件に関するメタデータが集められている。このドリー設定メタデータも、例えば、上記レンズ設定メタデータと同様に、映像素材の後処理段階などで、その映像素材に現れている被写体の動き、距離等を把握する上で有用な情報となる。

【0074】

以上、本実施形態にかかる例えば4つのメタデータグループの内容について説明した。このようにメタデータをグループ化することにより、メタデータの利用目的に応じて、必要なメタデータのみをグループ単位で好適に抽出して、利用、書き換えなどすることができる。

【0075】

例えば、映像の収録段階では、収録中あるいは収録完了した映像を識別、把握

するなどの目的で、シーン番号、タイムコード等を含む上記シーン情報グループのメタデータが抽出されて活用される。また、映像素材の後処理段階では、実写の映像に対してCG映像を合成処理する場合などに、上記カメラ、レンズおよびドリー設定グループのメタデータが有用である。具体的には、当該映像素材の画質を把握するなどの目的で、上記カメラ設定グループのメタデータが抽出されて活用される。また、当該映像素材内の被写体の動きを把握するなどの目的で、上記レンズ設定グループおよびドリー設定グループのメタデータが抽出されて活用される。

【0076】

なお、このようにレンズ設定グループおよびドリー設定グループのメタデータの利用目的には共通性がある。このため、本実施形態のように、レンズ設定グループおよびドリー設定グループを別グループとして構成するのではなく、例えば、1つのレンズ・ドリー設定グループとして構成し、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータを1つにまとめてグループ化するなどしてもよい。

【0077】

<3. メタデータフォーマット>

次に、図6に基づいて、本実施形態にかかるメタデータフォーマットについて説明する。なお、図6は、本実施形態にかかるメタデータフォーマットを説明するための説明図である。

【0078】

上記のように、本実施形態にかかるメタデータは、例えば4つのメタデータグループにグループ化されている。このようにグループ化されたメタデータは、例えば、上記撮像装置10およびメタデータ付加装置40等によって、所定のフォーマットで映像信号にフレーム単位で付加される。

【0079】

より詳細には、図6(a)に示すように、上記メタデータは、例えば、映像信号の垂直ブランキング領域内のアンシラリデータ領域等に、アンシラリデータとしてパッケージ化されて1フレーム毎に挿入される。このパッケージ化されたメタデータの例えば伝送時におけるフォーマットを、図6(b)に示す。

【0080】

図6 (b) に示すように、メタデータは、例えば、シーン情報グループ、カメラ設定グループ、レンズ設定グループおよびドリー設定グループという4つのメタデータグループにグループ化され、この4つのメタデータグループが連続して直列的に配列されたフォーマットを有する。各メタデータグループは、例えば、SMPTE (Society of Motion Picture and Television Engineers) 規格 (SMPTE 291M等) に基づいて、KLV (Key Length Value) 符号化されている。

【0081】

「K (Key)」は、例えば、各メタデータグループの先頭に付与される例えば1バイトのキーID (予約語) である。この「K」符号は、本実施形態にかかるグループ識別情報として構成されており、各メタデータグループを識別するための符号として機能する。例えば、映像信号のいかなるフレームにおいても、この「K」符号として、シーン情報グループには常に例えば「01」を付与し、カメラ設定グループには常に例えば「02」を付与し、レンズ設定グループには常に例えば「03」を付与し、ドリー設定グループには常に例えば「04」を付与することにより、メタデータグループ毎に固有の識別符号を統一して付与することができる。このように、メタデータグループ毎に固有のグループ識別情報である「K」符号を付与することにより、かかるグループ識別情報に基づいて、複数のメタデータグループの中から特定のメタデータグループのみを、フレーム毎に容易に抽出することができる。

【0082】

「L (Length)」は、例えば、上記「K」符号の次に付与される例えば1バイトのレンジス符号である。この「L」符号は、本実施形態にかかるデータ量情報として構成されており、後続のメタデータグループのデータ量を表す符号として機能する。例えば、あるフレームのシーン情報グループに付された「L」が「124」であれば、当該フレームにおけるシーン情報グループのデータ量が例えば124バイトであることを表す。このように、各メタデータグループのコンテンツの前に、データ量情報である「L」符号を付与することにより、メタデ

ータの抽出或いは書き換え処理の処理効率が向上する。つまり、メタデータ付加装置 40 および VTR 50 等のメタデータを処理する装置は、上記データ量情報である「L」符号を参照することにより、これから抽出或いは書き換えしようとするメタデータのデータ量を予め把握できる。このため、当該抽出或いは書き換え処理の処理効率が向上する。

【0083】

「Element」は、例えば、実際の各メタデータグループのメタデータが格納されるユーザデータ領域（Value 領域）であり、可変長である。

【0084】

また、このように KLV 符号化されたメタデータグループの前には、伝送されるメタデータの種類を定義、識別するためのフラグである「Ancillary Data Flag」アンシラリデータフラグ、「DID: Data identification」データ ID, 「SDID: Secondary Data Identification」セカンダリーデータ ID, 「DC: Data Counter」データカウンタ、などが付されている。一方、メタデータグループの後には、伝送時における誤り検出用の「CRC: Cyclic Redundancy Check」, 「CHECK SUM」などの符号が付されている。

【0085】

ところで、上記 SMPTE 規格では、KLV 符号化したメタデータを映像信号のアンシラリデータ領域にパッキングして挿入する場合には、アンシラリデータの 1 パケットサイズが 255 バイトとなるように規格化されている。そこで、本実施形態にかかるメタデータフォーマットでは、この規格に適合するように、グループ化されたメタデータのデータ総量が、例えば 255 バイト以下となるように調整されている。具体的には、例えば、シーン情報グループのメタデータ量が例えば 124 バイト以下、カメラ設定グループのメタデータ量が例えば 40 バイト以下、レンズ設定グループのメタデータ量が例えば 10 バイト以下、ドリー設定グループのメタデータ量が例えば 52 バイト以下、となるように調整されている。このため、アンシラリデータの 1 つのパケットサイズが、メタデータ総量で

例えば約 226 バイト以下となるように設定されている。

【0086】

このように、本実施形態にかかるメタデータフォーマットでは、全てのメタデータがアンシラリデータの 1 パケットサイズ (255 バイト) 内に収まるように設定されている。しかし、かかる例に限定されず、例えば、複数のアンシラリデータパケットを連結させて、これら複数のパケットにメタデータを分割してパッキングするようにしてもよい。

【0087】

以上説明したように、本実施形態にかかるメタデータフォーマットは、例えば、メタデータに割り当てられた領域を、メタデータグループ数に応じて分割し、各分割領域に、各メタデータグループのメタデータを挿入するような構成である。さらに、各メタデータグループの先頭には、上記グループ識別情報およびデータ量情報がそれぞれ付与されている。かかる構成により、メタデータの利用目的に応じて必要なメタデータを、メタデータグループ毎に、迅速かつ容易に検出、抽出または書き換えることができる。例えば、上記グループ識別情報を、映像作品の収録部署と編集部署との間で共通の識別 ID として共用することで、映像作品の制作過程においてメタデータを好適に利用することができる。

【0088】

< 4. 各装置の構成 >

次に、上記のようなメタデータ表示システム 1 を構成する主要な装置について詳細に説明する。

【0089】

< 4. 1 撮像装置 >

まず、図 7 に基づいて、本実施形態にかかる撮像装置 10 について詳細に説明する。なお、図 7 は、本実施形態にかかる撮像装置 10 の構成を示すブロック図である。

【0090】

図 7 に示すように、撮像装置 10 は、例えば、CPU 100 と、メモリ部 102 と、撮像部 104 と、信号処理部 106 と、表示部 108 と、カメラ設定メタ

データ生成部 110 と、メタデータ付加部 112 と、送受信部 114 と、レンズ装置 12 と、ドーナツ装置 14 とを備える。

【0091】

CPU (Central Processing Unit) 100 は、演算処理装置および制御装置として機能し、撮像装置 10 の各部の処理を制御することができる。また、メモリ部 102 は、例えば、各種の RAM, ROM, フラッシュメモリ、ハードディスクなどの記憶装置などで構成されており、CPU 100 の処理に関する各種データ、および CPU 100 の動作プログラム等を記憶または一時記憶する機能を有する。

【0092】

撮像部 104 は、例えば、OHB (Optical head base) などで構成されており、被写体を撮像して映像信号を生成する機能を有する。詳細には、この撮像部 104 は、例えば、レンズ装置 12 から入射された光学像を、プリズム (図示せず。) により R・G・B に分光し、各種のフィルタ (図示せず。) を透過させた上で、CCD (Charge Coupled Device) 等の撮像デバイス (図示せず。) により所定のシャッタースピードで光電変換して、アナログ電気信号である映像信号を生成する。

【0093】

信号処理部 106 は、撮像部 104 から入力された微弱なアナログ電気信号である映像信号に対して、ゲイン調整 (AGC) 処理、相関 2 重サンプリング処理、A/D 変換処理、エラー補正処理、ホワイトバランス調整処理、ダイナミックレンジ圧縮処理、ガンマ補正処理、シェーディング補正処理、ディテール調整処理、ニー処理などを施して、デジタル映像信号を出力することができる。なお、本実施形態では、例えば、HD (High Definition) デジタル映像信号を生成・出力するよう構成されている。また、この信号処理部 106 は、例えば、上記デジタル映像信号をアナログ映像信号に変換して、表示部 108 に出力することもできる。また、この信号処理部 106 は、例えば、予め設定された条件に基づいて、或いはカメラマンの入力操作に基づいて、出力する映像信号のフレームレートを変化 (例えば 23.98 ~ 30 P) させることができる。

【0094】

また、表示部108は、例えば、カメラマンが被写体を見るためのビューファインダーなどであり、CRTモニタなどで構成されている。この表示部108は、上記信号処理部106から入力された例えばアナログ映像信号を表示出力することができる。なお、この表示部108は、例えば、LCDモニタなどの各種のディスプレイ装置などで構成されてもよい。

【0095】

カメラ設定メタデータ生成部110は、例えば、撮像部104の設定情報や、上記信号処理部108でのガンマ、ニー、ディテール等の信号処理の設定情報などのパラメータを取得して管理している。さらに、カメラ設定メタデータ生成部110は、かかるパラメータに基づいて、上記カメラ設定メタデータを、例えば映像信号の1フレーム毎にそれぞれ生成して、メタデータ付加部112に出力する。

【0096】

メタデータ付加部112は、例えば、撮像装置10の外部へ映像信号を出力するタイミングにあわせて、カメラ設定メタデータを当該映像信号に1フレーム毎に付加することができる。具体的には、このメタデータ付加部112は、例えば、カメラ設定メタデータ生成部110から入力されたカメラ設定メタデータを、KLV符号化してパッキングする。さらに、メタデータ付加部112は、このパッキングしたカメラ設定メタデータを、図8(a)に示すように、映像信号のブランキング領域のうちカメラ設定グループに割り当てられている領域に、1フレーム毎に順次、挿入する。

【0097】

このとき、メタデータ付加部112は、図8(a)に示すように、例えば、カメラ設定グループ以外の、シーン情報グループ、レンズ設定グループおよびドリー設定グループに対応する領域には、ダミーデータを挿入しておくことができる。

【0098】

なお、上記のようなカメラ設定メタデータ生成部108およびメタデータ付加

部 1 1 0 は、例えば、ハードウェアとして構成してもよいし、或いは、上記処理機能を実現するソフトウェアとして構成して、このプログラムをメモリ部 1 0 2 に格納して CPU 1 0 0 が実際の処理を行うようにしてもよい。

【 0 0 9 9 】

送受信部 1 1 4 は、例えば、上記のようにしてカメラ設定メタデータが付加された映像信号を、光ファイバケーブルを介して CCU 2 0 に送信する。また、この送受信部 1 1 4 には、上記メタデータ合成装置 6 0 から、上記リターン映像信号として、メタデータ合成映像信号が入力される。送受信部 1 1 4 は、このメタデータ合成映像信号を、信号処理部 1 0 6 に出力する。これにより、信号処理部 1 0 6 は、メタデータ合成映像信号を例えばアナログ映像信号に変換して表示部 1 0 8 に出力する。この結果、表示部 1 0 8 は、メタデータがスーパーインポーズされた映像を表示することができる。

【 0 1 0 0 】

レンズ装置 1 2 は、例えば、光学ブロック 1 2 2 と、駆動系ブロック 1 2 4 と、レンズ設定メタデータ生成部 1 2 4 とを備える。

【 0 1 0 1 】

光学系ブロック 1 2 2 は、例えば、複数枚のレンズ、絞りなどからなり、被写体からの光学像を撮像部 1 0 4 に入射させることができる。駆動系ブロック 1 2 4 は、例えば、光学系ブロック 1 2 2 のレンズ間距離や絞りを調整するなどして、ズーム、アイリス、フォーカスなどを調整することができる。

【 0 1 0 2 】

レンズ設定メタデータ生成部 1 2 6 は、例えば、上記駆動系ブロック 1 2 4 のレンズ設定情報等のパラメータを取得して管理している。さらに、レンズ設定メタデータ生成部 1 2 6 は、かかるパラメータに基づいて、上記レンズ設定メタデータを例えば 1 フレーム毎に生成する。このようにして生成されたレンズ設定メタデータは、例えば、RS-232C ケーブルを介して、メタデータ付加装置 4 0 に出力される。

【 0 1 0 3 】

ドリー装置 1 4 は、例えば、ドリー計測部 1 4 2 と、ドリー設定メタデータ生

成部 1 4 4 とを備える。

【0 1 0 4】

ドリー計測部 1 4 2 は、例えば、GPS 情報、ドリー装置 1 4 の移動速度や向き、撮像装置 1 0 のアングルなどといった、ドリー装置 1 4 に関する各種の設定情報を計測して、ドリー設定メタデータ生成部 1 4 4 に出力する。

【0 1 0 5】

ドリー設定メタデータ生成部 1 4 4 は、例えば、上記ドリー計測部 1 4 2 からの計測情報に基づいて、上記ドリー設定メタデータを例えば 1 フレーム毎に生成する。このようにして生成されたドリー設定メタデータは、例えば、RS-232C ケーブルを介して、メタデータ付加装置 4 0 に出力される。

【0 1 0 6】

< 4. 2 カメラコントロールユニット >

次に、図 9 に基づいて、本実施形態にかかる CCU 2 0 について詳細に説明する。なお、図 9 は、本実施形態にかかる CCU 2 0 の構成を示すブロック図である。

【0 1 0 7】

図 9 に示すように、CCU 2 0 は、例えば、CPU 2 0 0 と、メモリ部 2 0 2 と、送受信部 2 0 4 と、信号処理部 2 0 6 と、シリアルライザ 2 0 8 と、デシリアルライザ 2 1 0 と、を備える。

【0 1 0 8】

CPU 2 0 0 は、演算処理装置および制御装置として機能し、CCU 2 0 の各部の処理を制御することができる。この CPU 2 0 0 には、リファレンス信号が入力されており、メタデータ表示システム 1 内の他の装置との間で、映像信号の同期をとることができる。また、メモリ部 2 0 2 は、例えば、各種の RAM、ROM、フラッシュメモリ、ハードディスクなどの記憶装置などで構成されており、CPU 2 0 0 の処理に関する各種データ、および CPU 2 0 0 の動作プログラム等を記憶または一時記憶する機能を有する。

【0 1 0 9】

送受信部 2 0 4 は、例えば、撮像装置 1 0 からカメラ設定メタデータが付加さ

れた映像信号を受信し、信号処理部 206 に送信する。

【0110】

信号処理部 206 は、例えば、光信号として入力された映像信号を、HDS DI 信号に変換処理して、シリアルライザ 208 に出力する。なお、この信号処理部 206 は、上記撮像装置 10 の信号処理部 106 の処理機能を具備するように構成することもできる。

【0111】

シリアルライザ 208 は、例えば、信号処理部 206 から受け取った映像信号をパラレルーシリアル変換して、HDS DI ケーブルを介してメタデータ付加装置 40 に送信する。なお、このCCU 20 が出力する映像信号のブランキング領域には、図 8 (a) に示したように、例えば、カメラ設定グループに対応する領域にのみ、実際のメタデータが挿入されており、その他のメタデータグループの領域にはダミーデータが挿入されている。

【0112】

デシリアルライザ 210 は、例えば、メタデータ合成装置 60 から送信されてきたリターン映像信号を、シリアルーパラレル変換して、信号処理部 206 に出力する。

【0113】

これにより、信号処理部 206 は、例えば、HDS DI 信号にとして入力されたリターン映像信号を、光信号に変換処理して、送受信部 204 に出力する。送受信部 204 は、このリターン映像信号を、例えば、光ファイバケーブル等を介して撮像装置 10 に送信する。

【0114】

< 4.3 メタデータ付加装置 >

次に、図 10 に基づいて、本実施形態にかかるメタデータ付加装置 40 について詳細に説明する。なお、図 10 は、本実施形態にかかるメタデータ付加装置 40 の構成を示すブロック図である。

【0115】

図 10 に示すように、メタデータ付加装置 40 は、例えば、CPU 400 と、

メモリ部 4 0 2 と、メタデータパッキング部 4 0 4 と、メタデータエンコーダ 4 0 6 と、デシリアライザ 4 0 8 と、メタデータ挿入部 4 1 0 と、シリアライザ 4 1 2 と、を備える。

【0 1 1 6】

C P U 4 0 0 は、演算処理装置および制御装置として機能し、メタデータ付加装置 4 0 の各部の処理を制御することができる。この C P U 4 0 0 には、リファレンス信号が入力されており、メタデータ表示システム 1 内の他の装置との間で、映像信号の同期をとることができる。また、この C P U 4 0 0 には、タイムコード信号 (L T C) が入力されており、この L T C に基づいてシーン情報メタデータの 1 つであるタイムコード情報を生成して、メモリ部 4 0 2 に記憶させることができる。また、かかる L T C を V T R 5 0 に出力することもできる。

【0 1 1 7】

また、メモリ部 4 0 2 は、例えば、各種の R A M、R O M、フラッシュメモリ、ハードディスクなどの記憶装置などで構成されており、C P U 4 0 0 の処理に関する各種データ、および C P U 4 0 0 の動作プログラム等を記憶または一時記憶する機能を有する。また、このメモリ部 4 0 2 は、例えば、各装置から送信されてきたメタデータを一時的に記憶するためのメタデータバッファメモリ 4 0 3 を具備している。

【0 1 1 8】

このメタデータバッファメモリ 4 0 3 は、例えば、上記レンズ装置 1 2 から撮影開始後に順次送信されてくるレンズ設定メタデータ、ドーリ装置 1 4 から撮影開始後に順次送信されてくるドーリ設定メタデータ、メタデータ入力用端末装置 3 0 から撮影開始前に予め所得したシーン情報メタデータ、C P U 4 0 0 から入力されたタイムコード情報、などを記憶する。

【0 1 1 9】

メタデータパッキング部 4 0 4 は、例えば、上記メタデータバッファメモリ 4 0 3 に蓄えられている各種のメタデータの中から必要なメタデータを抽出し、その利用目的ごとに、レンズ設定グループ、ドーリ設定グループ、シーン情報グループなどといった複数のメタデータグループにグループ化して、上記 K L V の構

造にパッキングし直す。メタデータパッキング部 4 0 4 は、このようにパッキングしたメタデータをメタデータエンコーダ 4 0 6 に出力する。

【0 1 2 0】

メタデータエンコーダ 4 0 6 は、上記メタデータパッキング部 4 0 4 からのメタデータをエンコードする。上記のようにしてメタデータ付加装置 4 0 に入力されてくるメタデータは、例えば R S - 2 3 2 C のプロトコル形式のデータである。このため、メタデータエンコーダ 4 0 6 は、例えば、このメタデータを、H D S D I 形式の映像信号へ挿入できるように、アンシラリデータパケット形式にフォーマット変換して符号化する（図 6 参照）。この符号化により、例えば、メタデータの前後には、上記説明したような各種のフラグや C R C などが付される。

【0 1 2 1】

デシリアライザ 4 0 8 は、C C U 2 0 から入力された映像信号をシリアルーパラル変換して、メタデータ挿入部 4 1 0 に出力する。

【0 1 2 2】

メタデータ挿入部 4 1 0 は、上記メタデータエンコーダ 4 0 6 から入力されたメタデータを、上記デシリアライザ 4 0 8 から入力されてくる映像信号のブランキング領域に、1 フレーム毎に順次挿入していく。

【0 1 2 3】

このとき、メタデータ挿入部 4 1 0 に入力されてくる映像信号において、例えば、ブランキング領域のうちカメラ設定グループに対応する領域には、図 8（a）に示すように、上記撮像装置 1 0 によって予めカメラ設定グループのカメラ設定メタデータが挿入された状態となっている。

【0 1 2 4】

一方、このカメラ設定グループ以外の、シーン情報グループ、レンズ設定グループ、ドリー設定グループに対応する領域には、ダミーデータが挿入された状態となっている。このため、メタデータ挿入部 4 1 0 は、図 8（b）に示すように、例えば、かかるダミーデータを、実際のシーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータ、ドリー設定メタデータなどにそれぞれ書き換えることで、当該メタデ

ータの当該映像信号へのメタデータの挿入が実現される。かかるメタデータの書き換え処理時には、メタデータ挿入部410は、例えば、各メタデータグループの対応領域に付与されているグループ識別情報「K」およびデータ量情報「L」に基づいて、当該対応領域の検出、書き換え処理を行うので、書き換え処理を効率的に行うことができる。また、メタデータ挿入部410は、このようにメタデータを挿入するときに、例えば、挿入するメタデータと映像信号との遅延時間の位相合わせを行うこともできる。

【0125】

シリアルライザ412は、上記のようにしてメタデータ挿入部410によってメタデータが1フレーム毎に付加された映像信号を、パラレルーシリアル変換して、VTR50に送信する。

【0126】

このように、本実施形態にかかるメタデータ付加装置40は、例えば、予めカメラ設定メタデータが付加されている映像信号に対し、さらに、シーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータを追加して付加することができる。

【0127】

<4.4 ビデオテープレコーダ>

次に、図11に基づいて、本実施形態にかかるVTR50について詳細に説明する。なお、図11は、本実施形態にかかるVTR50の構成を示すブロック図である。

【0128】

図11に示すように、VTR50は、例えば、CPU500と、メモリ部502と、デシリアルライザ504と、信号処理部506と、メタデータデコーダ508と、記録再生ブロック510と、ECCブロック512と、メタデータエンコーダ514と、シリアルライザ516と、を備える。

【0129】

CPU500は、演算処理装置および制御装置として機能し、VTR50の各部の処理を制御することができる。このCPU500には、タイムコード信号（

LTC) 信号が入力されている。また、メモリ部 5 0 2 は、例えば、各種の RAM、ROM、フラッシュメモリ、ハードディスクなどの記憶装置などで構成されており、CPU 5 0 0 の処理に関する各種データ、および CPU 5 0 0 の動作プログラム等を記憶または一時記憶する機能を有する。

【0 1 3 0】

デシリアライザ 5 0 4 は、メタデータ付加装置 4 0 から入力された映像信号をシリアルーパラレル変換して、信号処理部 5 0 6 に出力する。

【0 1 3 1】

信号処理部 5 0 6 は、例えば、映像信号等をビデオテープ 5 2 に対して好適に記録／再生するために、映像信号に各種の処理を施すことができる。例えば、信号処理部 5 0 6 は、必要に応じて、MPEG (Moving Picture Experts Group phase) 1, MPEG 2, MPEG 4, または DCT (Discrete Cosine Transform) 方式などに基づいて、映像信号を圧縮／伸張処理できる。また、信号処理部 5 0 6 は、例えば、上記各信号の記録／再生のタイミング合わせをしたり、映像信号と音声信号を分離して、ECC (Error Correcting Code: 誤り訂正符号) を付与したりもできる。また、信号処理部 5 0 6 は、例えば、映像信号に付加されているメタデータをフレーム単位で抽出したり、逆に、デコードされたメタデータを映像信号にフレーム単位で挿入したりできる。

【0 1 3 2】

この信号処理部 5 0 6 は、例えば、メタデータ付加装置 4 0 から入力された映像信号をそのままシリアライザ 5 1 4 に出力する、あるいは、ビデオテープ 5 2 から再生された映像信号をシリアライザ 5 1 4 に出力することができる。

【0 1 3 3】

メタデータデコーダ 5 0 8 は、例えば、映像信号から取り出されたメタデータをデコードする。具体的には、メタデータデコーダ 5 0 8 は、例えば、記録する上で不要な、当該メタデータに付与されているフラグ (Flag, DID, SDID 等) および CRC 等を取り除いて、CPU 5 0 0 に出力する。CPU 5 0 0 は、例えば、このメタデータに上記映像信号と同様に ECC を付与して、記録再

生ブロック 510 に出力する。

【0134】

記録再生ブロック 510 は、例えば、ビデオヘッドおよび駆動メカニズム（いずれも図示せず。）等から構成されている。この記録再生ブロック 510 は、メタデータが付加された映像信号をビデオテープ 52 に対して実際に記録／再生することができる。より詳細には、この記録再生ブロック 510 は、例えば、映像信号、音声信号およびメタデータを 1 フレーム単位でセットにして、ビデオテープ 52 の記録エリアに順次、記録していくことができる。また、この記録再生ブロック 510 は、例えば、ビデオテープ 52 の記録エリアに記録されている映像信号、音声信号およびメタデータを 1 フレーム単位でセットにして、順次、再生することができる。

【0135】

ECC ブロック 512 は、例えば、上記 ECC に基づいて、記録再生ブロック 510 によってビデオテープ 52 から再生された映像信号等の誤り検出を行う。この ECC ブロック 512 は、誤り検出完了後に、例えば、再生されたメタデータを CPU 500 を介してメタデータエンコーダ 514 に、映像信号及び音声信号を信号処理部 506 に出力する。

【0136】

メタデータエンコーダ 514 は、再生されたメタデータを伝送用のフォーマットにエンコード（上記フラグ、CRC 等を付与）して、信号処理部 506 に出力する。信号処理部 506 は、例えば、ECC ブロック 512 から入力された映像信号及び音声信号と、上記メタデータエンコーダ 514 によってエンコードされたメタデータとを合わせて、シリアルライザ 516 に出力する。

【0137】

シリアルライザ 516 は、信号処理部 506 から入力された映像信号等を、パラレル-シリアル変換して、メタデータ合成装置 60 に送信する。

【0138】

なお、上記のように、信号処理部 506、メタデータデコーダ 508、CPU 500、記録再生ブロック 510、ECC ブロック 512 およびメタデータエン

コード514などは、本実施形態にかかる記録再生部として構成されており、メタデータが付加された映像信号を記憶媒体に対して、記録／再生することができる。

【0139】

<4.5 メタデータ合成装置>

次に、図12に基づいて、本実施形態にかかる特徴であるメタデータ合成装置60について詳細に説明する。なお、図12は、本実施形態にかかるメタデータ合成装置60の構成を示すブロック図である。

【0140】

図12に示すように、メタデータ合成装置60は、例えば、CPU600と、メモリ部602と、デシリアライザ604と、メタデータ抽出部606と、メタデータデコード608と、メタデータ映像生成部610と、メタデータ映像合成部612と、シリアライザ614と、を備える。

【0141】

CPU600は、演算処理装置および制御装置として機能し、メタデータ合成装置60の各部の処理を制御することができる。また、メモリ部602は、例えば、各種のRAM、ROM、フラッシュメモリ、ハードディスクなどの記憶装置などで構成されており、CPU600の処理に関する各種データ、およびCPU600の動作プログラム等を記憶または一時記憶する機能を有する。

【0142】

デシリアライザ604は、VTR50から入力された映像信号をシリアルーパラル変換して、メタデータ抽出部606に出力する。

【0143】

メタデータ抽出部606は、例えば、映像信号のブランキング領域に挿入されているメタデータを1フレーム毎に抽出する。このとき、メタデータ抽出部606は、例えば、ブランキング領域に挿入されている全てのメタデータを抽出するのではなく、例えば、特定のメタデータグループ（例えばシーン情報グループ）のみのデータを抽出したり、さらに、当該メタデータグループ内の特定のメタデータ（例えば、タイムコード、シーン番号およびテイク番号）のみの抽出し

たりするようにしてもよい。本実施形態にかかるメタデータ合成装置60では、例えば、いかなるメタデータを抽出するかを予め設定しておくことで、例えば、多様なメタデータの中から、必要な任意のメタデータを抽出することができる。

【0144】

なお、かかるメタデータの抽出処理時には、メタデータ抽出部606は、各メタデータグループに付与されているグループ識別情報「K」およびデータ量情報「L」に基づいて、抽出しようとするメタデータグループの位置およびデータ量を把握できるので、必要なメタデータの抽出処理を効率的に行うことができる。

【0145】

メタデータ抽出部606は、例えば、このようにして抽出したメタデータをメタデータデコーダ608に出力する一方、映像信号はそのままの状態でもタデータ映像合成部612に出力する。

【0146】

メタデータデコーダ608は、例えば、メタデータ抽出部606から入力されたメタデータをデコードし、メタデータ映像生成部610に出力する。

【0147】

メタデータ映像生成部610は、例えば、メタデータデコーダ608から入力されたメタデータを、スーパーインポーズするために映像データに書き換えることができる。即ち、メタデータデコーダ608でデコードされたメタデータは、例えばテキストデータ形式のメタデータであるので、メタデータ映像生成部610は、このメタデータを映像データ形式に変換する。

【0148】

メタデータ映像合成部612は、例えば、メタデータ抽出部606から入力された映像信号に対して、メタデータ映像生成部610で映像データに変換されたメタデータをフレーム単位で順次、合成することができる。換言すると、このメタデータ付加部612は、例えば、当該映像信号に対して、映像データ化されたメタデータをフレーム単位で多重して、スーパーインポーズすることができる。このように、メタデータ映像合成部612は、映像信号に対して、当該映像信号から抽出したメタデータを映像として合成して、上記メタデータ合成映像信号を

生成する。

【0 1 4 9】

シリアルライザ 6 1 2 は、例えば、メタデータ映像合成部 6 1 2 から入力されたメタデータ合成映像信号を、パラレルーシリアル変換する。さらに、シリアルライザ 6 1 2 は、変換したメタデータ合成映像信号を表示装置 7 0 に送信する。また、シリアルライザ 6 1 2 は、例えば、当該メタデータ合成映像信号を、リターン映像信号として、例えば C C U 2 0 を経由して撮像装置 1 0 にも送信する。

【0 1 5 0】

以上のように、メタデータ合成装置 6 0 は、例えば、撮像装置 1 0 によって撮影中の映像信号、或いは V T R 5 0 で再生された映像信号から、そのブランキング領域に挿入されているメタデータを取り出して、当該映像信号に映像データとして合成（スーパーインポーズ等）することができる。これにより、メタデータ合成装置 6 0 は、当該メタデータがスーパーインポーズ等されたメタデータ合成映像信号を生成することができる。さらに、メタデータ合成装置 6 0 は、かかるメタデータ合成映像信号を、例えば、表示装置 7 0 に送信することができる。

【0 1 5 1】

この結果、表示装置 7 0 は、このようなメタデータ合成映像信号を取得し、当該メタデータがスーパーインポーズ等された映像を表示することができる。これにより、ディレクタ等は、例えば、撮像装置 1 0 によって収録中の映像、あるいは収録後に V T R 5 0 で再生された映像を、当該映像に関するメタデータとともに閲覧することができる。

【0 1 5 2】

また、メタデータ合成装置 6 0 は、かかるメタデータ合成映像信号を、リターン映像信号として、撮像装置 1 0 にも送信することができる。この結果、撮像装置 1 0 は、例えば、自身が現在撮影中あるいは過去に撮影した映像信号に対応するリターン映像信号として、上記メタデータ合成映像信号を受信することができる。さらに撮像装置 1 0 は、このメタデータ合成映像信号に基づいて、ビューファインダー等の表示部 1 0 8 に、当該メタデータがスーパーインポーズ等された映像を表示することができる。これにより、カメラマン等は、例えば、撮像装置

10によって収録中の映像、あるいは収録後にVTR50で再生された映像を、当該映像に関するメタデータとともに閲覧することができる。

【0153】

<5. 映像記録方法>

次に、図13に基づいて、上記のようなメタデータ表示システム1を用いた本実施形態にかかる映像記録方法について説明する。なお、図13は、本実施形態にかかる映像記録方法を説明するためのタイミングチャートである。

【0154】

図13(a)に示すように、撮影が開始されると、まず、撮像装置10には、生の映像が、順次、入射される。すると、撮像装置10は、0フレーム、1フレーム、2フレーム、…とフレーム単位で映像信号を順次生成していく。このとき、撮像装置10のCCD等は、例えば、当該映像を例えばプログレッシブ方式でスキャンする。このため、撮像装置10の出力する映像信号は、撮像装置10に入射された生の映像に対して、例えば1フレーム程度の遅延が生ずる。この結果、図13(b)に示すように、CCU20の出力も例えば1フレーム程度遅延する。

【0155】

また、上記映像信号の生成と略同時に、撮像装置10は、カメラ設定メタデータを1フレーム毎に生成し、図13(b)に示すように、対応するフレームの映像信号のブランキング領域に1フレーム毎に順次挿入していく。これにより、撮像装置10は、撮像処理を実行して映像信号を生成しながら、当該映像信号に対して、カメラ設定グループのメタデータをフレーム単位で付加することができる。

【0156】

また、このような映像装置10の撮影処理と同時並行して、レンズ装置12およびドリー装置14は、上記撮影処理時における設定情報を収集して、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータを例えば1フレーム毎に生成し、メタデータ付加装置40に順次出力している。

【0157】

さらに、CCU20には、上記撮像装置10によって生成され、カメラ設定メタデータが1フレーム毎に付加された映像信号が、順次、入力されてくる。CCU20は、図13(b)に示すように、この映像信号をメタデータ付加装置40に順次出力していく。

【0158】

また、メタデータ付加装置40は、図13(c)に示すように、CCU20から入力されてくる映像信号のブランキング領域に、例えば、シーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータを、1フレーム毎に順次挿入していく。また、メタデータ付加装置40は、例えば、当該映像信号に対して1フレーム毎に、タイムコード情報をシーン情報メタデータの1つとして付加していく。このようにして、メタデータ付加装置40は、上記撮像装置10による撮影処理と同時並行して、当該映像信号に対して、利用目体に応じてグループ化されたメタデータをフレーム単位で付加することができる。

【0159】

さらに、VTR50には、図13(d)に示すように、例えば、メタデータ付加装置40から、メタデータが付加された映像信号が順次入力されるとともに、集音装置18から音声信号が順次入力されてくる。この音声信号は、例えば、一旦メモリ部502に貯蔵され、当該映像信号の遅延に合わせて映像信号に同期して記録される。VTR50は、当該映像信号のメタデータをデコードした上で、当該映像信号および同期された音声信号とともに、ビデオテープ52等にフレーム単位で記録していく。

【0160】

以上のように、本実施形態にかかる映像記録方法では、例えば、撮像装置10による撮影処理を実行しながら、各種のメタデータを生成してグループ化し、当該撮影処理によって生成された映像信号に対して上記グループ化されたメタデータをフレーム単位で付加して、記憶媒体に記録することができる。

【0161】

<6. メタデータ表示方法>

次に、図14および図15に基づいて、上記のようなメタデータ表示システム

1 を用いた本実施形態にかかるメタデータ表示方法について説明する。なお、図 1 4 および図 1 5 は、本実施形態にかかる撮像装置 1 0 の表示部 1 0 8 に表示されたリターン映像の具体例を示す説明図である。

【0 1 6 2】

< 6 . 1 撮影・収録中のメタデータ表示方法 >

まず、上記撮影装置 1 0 による撮影処理、および V T R 5 0 による収録処理中における、当該収録中の映像信号を撮像装置 1 0 の表示部 1 0 8 に表示させる処理について説明する。

【0 1 6 3】

上記図 1 3 で説明したように、撮像装置 1 0 の撮影中には、撮像装置 1 0 によって生成された映像信号に対して、メタデータ付加装置 4 0 がフレーム単位でメタデータを付加する。このようにしてメタデータが付加された映像信号は、例えば、V T R 5 0 を介してメタデータ合成装置 6 0 にリアルタイムで入力されてくる。すると、メタデータ合成装置 6 0 は、例えば、設定されている抽出条件に基づいて当該映像信号から所定のメタデータをフレーム単位で順次、抽出して、デコードし、さらに、このメタデータを映像データ化して当該映像信号にフレーム単位で順次、合成して、上記メタデータ合成映像信号を生成・出力する。このメタデータ合成映像信号は、例えば、リターン映像信号として、撮像装置 1 0 に入力される。

【0 1 6 4】

このようにして、カメラマンが撮像装置 1 0 を用いて撮影しているときには、例えば、メタデータ合成装置 6 0 から撮像装置 1 0 にリターン映像信号が提供される。この結果、図 1 4 に示すように、撮像装置 1 0 の表示部 1 0 8 は、例えば、カメラマンが現在撮影中の映像（図 1 4 の例では被写体がライオン）を表示することができる。さらに、この撮影中の映像とともに、例えば、メタデータ合成部 6 0 で抽出されたシーン情報メタデータ等を、スーパーインポーズ表示することができる。具体的には、図 1 4 の例では、例えば、表示画面の右上隅に、タイムコード「1 2 : 3 4 : 1 0 : 1 4」、撮影中の映像素材のシーン番号「0 0 1 7」、撮影中の映像素材のテイク番号「0 0 0 5」が、スーパーインポーズ表

示されている。かかるタイムコード、シーン番号およびテイク番号等は、例えば、従来では電子カチンコ等に表示されていた情報であり、メタデータ合成装置 60 の抽出条件を設定することで、多様なメタデータの中から抽出されたメタデータである。

【0165】

このようなリターン映像の表示により、カメラマンは、上記のような従来では電子カチンコ等に表示されていたシーン情報データを、撮影中の映像とともに閲覧できる。よって、カメラマン等は、スーパーインポーズ表示されたシーン情報データに基づいて、撮影中の映像がいかなるシーンの、いかなるテイクの、いかなる時間のものであるかなどを、容易に識別、確認することができる。

【0166】

< 6. 2 撮影・収録後のメタデータ表示方法 >

次に、あるシーンの撮影・収録が終了した後に、ビデオテープ 52 等に記録されている映像信号を VTR 50 により再生して、撮像装置 10 の表示部 108 に表示させる処理について説明する。

【0167】

上記のように、撮像装置 10 によって生成され、メタデータ合成装置 50 等によってメタデータがフレーム単位で付加された映像信号は、VTR 50 によってビデオテープ 52 等の記憶媒体に記録されている。このような映像素材の撮影・収録後に、収録されている映像素材を表示する場合には、まず、VTR 50 によって、ビデオテープ 52 等に記録されている映像信号が再生される。このようにして再生された映像信号は、例えば、メタデータ合成装置 60 にフレーム単位で順次入力される。すると、メタデータ合成装置 60 は、上記と同様にして、メタデータ合成映像信号を生成し、このメタデータ合成映像信号を、例えば、リターン映像信号として、撮像装置 10 に出力する。

【0168】

このようにして、あるシーンの撮影・収録が終了した後に、VTR 50 によって再生された映像信号は、例えば、メタデータ合成装置 60 から撮像装置 10 にリターン映像信号として提供される。この結果、図 15 に示すように、例えば、

再生された映像とともに、例えば、メタデータ合成部 60 で抽出されたメタデータを、スーパーインポーズ表示させることができる。具体的には、図 15 の例では、例えば、表示画面の左上隅には、例えば図 14 の場合と同様なシーン情報メタデータがスーパーインポーズ表示されている。また、表示画面の右上隅には、当該映像素材の撮影時における撮像装置 10 のシャッタースピード設定「1 / 125」、レンズ装置 12 のズーム設定「10 倍」、ドリー装置 14 の移動スピード「1.2 m / s」などのメタデータが、スーパーインポーズ表示されている。このように、シーン情報メタデータのみならず、カメラ設定メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータ内の必要なメタデータをも、上記メタデータ合成装置 60 の抽出条件を設定することにより、リターン映像とともに表示させることができる。

【0169】

このようなリターン映像の表示により、カメラマン等は、撮影・収録後に、表示部 108 に再生表示された映像を閲覧して、メタデータを参考にしながら、自身が撮影した映像の善し悪しをチェックできる。

【0170】

このとき、図 15 の例のように、リターン映像内に、シーン情報メタデータがスーパーインポーズ表示されていることにより、カメラマンは、再生された映像がいかなるシーンの、いかなるテイクの、いかなる時間のものであるかなどを、容易に識別、確認することができる。さらに、リターン映像内に、カメラ設定メタデータ、シーン設定メタデータ、ドリー設定メタデータ等から抽出された所望のメタデータが、スーパーインポーズ表示されていれば、カメラマンは、映像の画質や被写体の動き、撮影条件、撮像装置 10 等の設定を客観的かつ正確に把握できる。このため、同じシーンを撮影し直すときなどに、カメラマンは、リターン映像の上記メタデータを参考にして、撮像装置 10 等を好適に設定し直したり、撮影するアングルやズームを好適に調整したりできる。

【0171】

(第 2 の実施の形態)

次に、本発明の第 2 の実施形態にかかるメタデータ表示システム 1 等について

説明する。第2の実施形態にかかるメタデータ表示システム1は、上記第1の実施形態にかかるメタデータ表示システム1と比して、撮像装置10はカメラ設定メタデータを映像信号に付加せず、メタデータ付加装置40が全てのメタデータをまとめて映像信号に付加する点で相違するのみであり、その他の機能構成は第1の実施形態の場合と略同一であるので、その説明は省略する。

【0172】

以下に、図16に基づいて、本実施形態にかかるメタデータ表示システム1の全体構成および各装置の特徴的な処理機能について説明する。なお、図16は、本実施形態にかかるメタデータ表示システム1の概略的な構成を示すブロック図である。

【0173】

図16に示すように、本実施形態にかかるメタデータ表示システム1では、例えば、CCU20が、撮像装置10から取得したカメラ設定メタデータを、RS-232Cケーブル等を介して映像信号とは別の経路でメタデータ付加装置40に出力することができるように構成されている。この構成は、撮像装置10が、上記第1の実施形態とは異なり、メタデータを映像信号にフレーム単位で付加できない構成である場合に有効である。

【0174】

より詳細に説明すると、上記第1の実施形態にかかる撮像装置10は、図7に示したようにメタデータ付加部112を具備していたが、本実施形態にかかる撮像装置10は、例えば、このメタデータ付加部112を備えていない。このため、本実施形態にかかる撮像装置10は、例えば、信号処理部106で生成した映像信号に対して、カメラ設定メタデータをフレーム単位で付加することなく、当該映像信号を送受信部114からCCU20に出力する。しかし、撮像装置10とCCU20の間では、例えば、光ケーブル等を介して、撮像装置10のカメラ設定メタデータ等の情報を通信している。このため、CCU20は、必要に応じて撮像装置10のカメラ設定メタデータを取得することができる。従って、CCU20のCPU200等は、例えば、取得したカメラ設定メタデータを、RS-232Cケーブルなどを介して、映像とは別に、メタデータ付加装置40に順次

出力することができる。このようにCCU20から出力されたカメラ設定メタデータは、メタデータ付加装置40のメタデータバッファメモリ403に、他のメタデータグループのメタデータとともに記憶される。

【0175】

メタデータ付加装置40は、例えば、上記第1の実施形態と同様にして、シーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータに加え、CCU20から取得したカメラ設定メタデータをもグループ化する。さらに、メタデータ付加装置40は、例えば、これら4つのメタデータグループをパッキングしてKLV符号化した上で、CCU20から入力されてくる映像信号のブランキング領域に対して、1フレーム単位で順次挿入していく。このようにして、メタデータ付加装置40は、例えば、映像信号に対して1フレーム単位で全てのメタデータを同時に付加することができる。その後のVTR50等の処理は、上記第1の実施形態の場合と略同一であるので、説明を省略する。

【0176】

上記のように、第2の実施形態にかかるメタデータ表示システムでは、システム内で生成される例えばシーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータ、ドリー設定メタデータおよびカメラ設定メタデータの全てを、メタデータ付加装置40に集合させて、まとめて映像信号に付加することができる。このため、例えば、メタデータを付加する機能を有していない撮像装置10を用いた場合などにも、映像信号に対してフレーム単位であらゆるメタデータを付加することができる。

【0177】

また、上記のようにしてメタデータを映像信号に付加する場合であっても、本実施形態にかかるメタデータ合成装置60は、第1の実施形態にかかるメタデータ合成装置60と同様にしてメタデータ合成映像信号を生成し、リターン映像信号として撮像装置10に提供することができる。

【0178】

以上説明したように、上記第1および第2の実施形態にかかるメタデータ表示システム1、及びこれを用いた映像記録方法及びメタデータ表示方法によれば、撮像装置10によって生成された映像信号に対して、撮影処理中にリアルタイム

で、映像信号に関連するメタデータをフレーム単位で付加して、同一記憶媒体に記録することができる。このため、従来のように、P C等の端末装置内に記録されたメタデータと、記憶媒体中に記録された映像素材とを、タイムコード等で間接的にリンクする必要がなくなり、映像素材とその映像素材に関するメタデータとを、直接的にリンクさせて記録することができる。従って、映像素材とメタデータを一体的に管理することができるので便利である。また、メタデータの抽出時に映像素材とメタデータの整合性をとる必要が無いので、必要なメタデータを効率的に抽出して利用したり、書き換えたりできる

【0 1 7 9】

例えば、映像素材の編集段階において、映像素材が編集されてI n点およびo u t点で切り出されたとしても、対応する部分のメタデータも当該映像素材に付随して切り出される。このため、映像素材とメタデータとの整合性をとらなくても、映像素材と同期させてメタデータを連続的に抽出・表示することができる。また、その後に映像素材を後処理等する場合でも、当該編集後の映像素材からメタデータを迅速かつ容易に抽出して、後処理等に活用することができる。例えば、映像素材と、この映像素材に対応するメタデータとを同時にモニタリングすることにより、オペレータは映像素材の画質、動き等を的確に把握できる。

【0 1 8 0】

また、撮像装置10が可変速撮影処理することで、記録された映像信号のフレームレートが変化している場合であっても、当該映像信号に対してフレーム単位でメタデータが付加されているので、単位時間当たりの映像信号のフレーム数とメタデータの記録数との間にずれが生じることがない。よって、このような可変速撮影された映像素材にも対応して、映像素材とメタデータとを好適にリンクすることができる。従って、可変速撮影された映像信号から好適にメタデータを抽出して、映像とともにモニタリングできる。

【0 1 8 1】

また、上記のようにメタデータをその利用目的に応じてグループ化して、映像信号に付加することにより、メタデータをグループ単位で抽出、書き換え等することができる。このため、抽出、書き換えするメタデータのデータ量を低減する

ことができるので、処理効率を高めることができる。また、特定のメタデータグループのみのモニタリングや差し替えを、容易かつ迅速に実現することができる。

【 0 1 8 2 】

例えば、撮影・収録段階では、シーン情報メタデータのみを抽出して映像に多重して表示することにより、カメラマンおよびディレクタ等は、撮像装置 1 0 の表示部 1 0 7 や表示装置 7 0 を閲覧して、撮影収録中の映像素材、または収録後に再生された映像素材のインデックス情報（タイムコード、シーン番号、テイク番号等）を的確に把握できる。

【 0 1 8 3 】

また、編集段階において C G 合成処理等の後処理を行う場合には、例えば、カメラ設定メタデータのみを抽出して編集装置の表示装置に表示することで、映像素材の画質（明るさ、色合い、質感等）を把握でき、一方、例えば、レンズおよびドリー設定メタデータを抽出して編集装置の表示装置に表示することで、撮影時における撮像装置 1 0 および被写体の動き等を的確に把握できる。また、映像素材の収録時におけるカメラマンまたはディレクタ等のコメント（撮影状況のメモ書き等）を例えばシーン情報メタデータに追加しておくことで、撮影部署と編集部署との間等で映像素材に関する意志の疎通を図ることができる。

【 0 1 8 4 】

また、上記のようにして各種のメタデータが合成された映像信号（メタデータ合成映像信号）を、撮像装置 1 0 にリターン映像として戻すことができる。このため、撮像装置 1 0 の表示部 1 0 8 等に、各種のメタデータがスーパーインポーズ等された映像を表示させることができる。換言すると、撮像装置 1 0 の表示部 1 0 8 は、撮影された映像素材とこの映像素材に関連するメタデータとを、フレーム単位で同期させて表示することができる。

【 0 1 8 5 】

具体的には、撮影収録中の映像に対して、従来では電子カチンコ等に表示されていたシーン情報メタデータ（タイムコード、シーン番号、テイク番号等）等を合成して、リターン映像として撮像装置 1 0 で表示させることができる。これに

より、カメラマンは、このシーン情報メタデータ等を、撮影中の映像とともに閲覧できる。このため、カメラマンは、撮影中の映像のインデックス情報を的確に把握しながら、好適に撮影を行うことができる。

【0186】

また、収録後に V T R 5 0 等で再生された映像に対して、上記シーン情報メタデータ、カメラ設定メタデータ、レンズ設定メタデータ、ドーリ設定メタデータ等のうち必要なメタデータを合成して、リターン映像として撮像装置 1 0 で表示させることができる。これにより、カメラマンは、撮影・収録後に、表示部 1 0 8 に再生表示された映像を閲覧しながら、収録された映像のシーン番号やテイク番号等のインデックス情報を確認したり、当該映像の撮影時における各種機器の設定情報や、当該映像の画質、被写体等の動きに関するメタデータを客観的かつ正確に把握したりできる。このため、上記各種のメタデータを参考にしながら、撮影された映像の善し悪し、修正点等をチェックできる。このため、同じシーンを撮影し直すときなどに、カメラマンは、リターン映像の上記メタデータを参考にして、撮像装置 1 0 等を好適に設定し直したり、撮影するアングルやズームを好適に調整したりできる。

【0187】

以上、添付図面を参照しながら本発明の好適な実施形態について説明したが、本発明はかかる例に限定されない。当業者であれば、特許請求の範囲に記載された技術的思想の範疇内において各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、それらについても当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。

【0188】

例えば、上記第 1 および第 2 の実施形態にかかるメタデータ表示システム 1 では、メタデータ付加装置 4 0 は、撮像装置 1 0、CCU 2 0 および V T R 5 0 等とは、別体のハードウェアとして構成されていたが、本発明は、かかる例に限定されない。例えば、メタデータ付加装置 4 0 は、撮像装置 1 0、CCU 2 0 または V T R 5 0 等のいずれか 1 つまたは複数と、一体に構成されるように変更してもよい。

【 0 1 8 9 】

また、上記実施形態では、メタデータ合成装置 6 0 は、V T R 5 0 等とは、別体のハードウェアとして構成されていたが、本発明は、かかる例に限定されない。例えば、メタデータ合成装置 6 0 は、V T R 5 0 等と一体に構成されるように変更してもよい。

【 0 1 9 0 】

かかるメタデータ付加装置 4 0 およびメタデータ合成装置 6 0 の変更例について、以下に具体例を挙げて説明する。

【 0 1 9 1 】

まず、図 1 7 に基づいて、変更例 1 にかかるメタデータ表示システム 1 の構成について説明する。なお、図 1 7 は、変更例 1 にかかるメタデータ表示システム 1 の概略的な構成を示すブロック図である。

【 0 1 9 2 】

図 1 7 に示すように、変更例 1 にかかるメタデータ表示システム 1 では、メタデータ付加装置 4 0 が、V T R 5 0 等の映像信号記録再生装置に内蔵されている。このため、シーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータ等は、レンズ装置 1 2、ドリー装置 1 4 およびメタデータ入力用端末装置 3 0 等から、R S - 2 3 2 C ケーブル等を介して V T R 5 0 に入力されている。V T R 5 0 に内蔵されたメタデータ付加装置 4 0 の処理機能は、例えば、上記第 1 の実施形態にかかるメタデータ付加装置 4 0 の処理機能と略同一であり、入力された各種のメタデータをグループ化して K L V 符号化し、映像信号にフレーム単位で付加することができる。

【 0 1 9 3 】

また、変更例 1 にかかるメタデータ表示システム 1 では、メタデータ合成装置 6 0 もまた、V T R 5 0 等の映像信号記録再生装置に内蔵されている。V T R 5 0 に内蔵されたメタデータ合成装置 6 0 の処理機能は、例えば、上記第 1 の実施形態にかかるメタデータ合成装置 6 0 の処理機能と略同一であり、入力された映像信号からフレーム単位でメタデータを抽出、デコードして、映像信号に合成することができる。このように、メタデータ付加装置 4 0 とメタデータ合成装置 6

0 と V T R 5 0 とを一体化して構成しても良い。

【0 1 9 4】

次に、図 1 8 に基づいて、変更例 2 にかかるメタデータ表示システム 1 の構成について説明する。なお、図 1 8 は、変更例 2 にかかるメタデータ表示システム 1 の概略的な構成を示すブロック図である。

【0 1 9 5】

図 1 8 に示すように、変更例 2 にかかるメタデータ表示システム 1 では、メタデータ付加装置 4 0 が、撮像装置 1 0 に内蔵されている。このため、シーン情報メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータ等は、レンズ装置 1 2、ドリー装置 1 4 およびメタデータ入力用端末装置 3 0 等から、R S - 2 3 2 C ケーブル等を介して撮像装置 1 0 に入力されている。撮像装置 1 0 に内蔵されたメタデータ付加装置 4 0 の処理機能は、例えば、上記第 1 の実施形態にかかるメタデータ付加部 1 1 2 の処理機能（カメラ設定メタデータを映像信号に付加する機能）と、メタデータ付加装置 4 0 の処理機能（シーン情報設定メタデータ、レンズ設定メタデータおよびレンズ設定メタデータを映像信号に付加する機能）とを合わせた処理機能である。詳細には、撮像装置 1 0 に内蔵されたメタデータ付加装置 4 0 は、例えば、上記 4 つのメタデータをグループ化して K L V 符号化し、映像信号にフレーム単位で付加することができる。このように、メタデータ付加装置 4 0 と撮像装置 1 0 とを一体化して構成し、撮像装置 1 0 において、カメラ設定メタデータ、シーン情報設定メタデータ、レンズ設定メタデータおよびドリー設定メタデータのすべてを、映像信号に付加するようにしてもよい。

【0 1 9 6】

また、変更例 2 にかかるメタデータ表示システム 1 では、メタデータ合成装置 6 0 は、変更例 1 の場合と同様に、V T R 5 0 等の映像信号記録再生装置に内蔵されている。このように、メタデータ合成装置 6 0 と V T R 5 0 とを一体化して構成しても良い。

【0 1 9 7】

上記のように、メタデータ付加装置 4 0 を V T R 5 0 等または撮像装置 1 0 など

に内蔵したり、メタデータ合成装置 5 0 を V T R 5 0 等に内蔵したりすること

により、システム内の機器数を低減し、機器間の接続の手間等を省力化することができる。

【0198】

また、変更例1および変更例2にかかるメタデータ表示システム1では、例えば、CCU20が設けられておらず、撮像装置10からVTR50に対して、HDSIケーブル等を介して映像信号が送信されている。このように、CCU20の処理機能を撮像装置10が備えるように構成しても勿論よい。

【0199】

さらに、図示はしないが、撮像装置10を、例えば、映像信号を記憶媒体に記録する機能を備えた撮像装置（カムコーダ等）として構成してもよい。これにより、撮像装置10が、例えば、上記CCU20、メタデータ付加装置40、VTR50、メタデータ合成装置60の全ての機能を備えるように構成することもできる。

【0200】

また、上記実施形態では、レンズ装置12が生成したレンズ設定メタデータは、RS-232Cケーブル等を介して出力され、メタデータ付加装置40で映像信号に付加されたが、本発明はかかる例に限定されない。例えば、撮像装置10本体との間でレンズの設定情報等を通信可能なレンズ装置12を採用して、レンズ装置12から撮像装置10本体に対して、レンズ設定メタデータ等を直接入力するように構成してもよい。これにより、撮像装置10のメタデータ付加部112が、例えば、カメラ設定メタデータのみならず、レンズ装置12から取得したレンズ設定メタデータをも映像信号に付加するように構成することもできる。

【0201】

また、上記実施形態では、機器間で各種メタデータ等の通信を行うインターフェースとして、RS-232Cを採用していたが、かかる例に限定されず、例えば、USB (Universal Serial Bus), SCSI (Small Computer System Interface), シリアルSCSI, GP-IB (General Purpose Interface Bus) などの各種のインターフェースを利用してもよい。また、上記機器間では

、有線通信に限られず、例えば、無線通信によりメタデータ及び／又は映像信号等を伝送してもよい。

【0202】

また、上記実施形態では、メタデータ表示システム内で生成される各種のメタデータは、シーン情報グループ、カメラ設定グループ、レンズ設定グループ、ドリー設定グループからなる4つメタデータグループにグループ分けされていたが、本発明はかかる例に限定されない。例えば、レンズ設定グループとドリー設定グループとを1つにまとめて、レンズ・ドリー設定グループするなど、上記4つのメタデータグループをその利用目的に応じて任意に組み合わせても良い。また、上4つのメタデータグループの全てを設ける必要もなく、例えば、上記のうちの1つ以上のメタデータグループを設けるようにしても良い。

【0203】

また、上記以外の新たなメタデータグループを設けてもよい。具体的には、例えば、音声情報グループを設け、この音声情報グループ内に、録音方式情報（ステレオ、モノラル、サラウンド等）、録音内容情報（マイク1は背景音を録音し、マイク2は俳優の音声を録音している等）などの音声関連情報メタデータをグループ化してもよい。

【0204】

また、例えば、メタデータ表示システム1内に複数台の撮像装置10が設けられている場合には、かかる複数台の撮像装置10に対して、上記リターン映像を提供するようにしてもよい。これにより、各撮像装置10のカメラマンは、上記リターン映像が撮像装置10の表示部108に表示開始されたことを合図として、各々の撮像処理を開始することができる。

【0205】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、撮影した映像素材に関連するメタデータを、当該映像素材とともに同期させて表示することができる。このため、カメラマン等は、映像素材の撮影収録中あるいは収録後に、当該映像素材に関するメタデータを映像とともに確認できるので、映像素材の識別、撮影内容の確認、撮

影後のチェックなどを容易かつ正確に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図 1 は、第 1 の実施形態にかかるメタデータ表示システムの概略的な構成を示すブロック図である。

【図 2】

図 2 は、第 1 の実施形態にかかるシーン情報グループに含まれるシーン情報メタデータの具体例を示す説明図である。

【図 3】

図 3 は、第 1 の実施形態にかかるカメラ設定グループに含まれるカメラ設定メタデータの具体例を示す説明図である。

【図 4】

図 4 は、第 1 の実施形態にかかるレンズ設定グループに含まれるレンズ設定メタデータの具体例を示す説明図である。

【図 5】

図 5 は、第 1 の実施形態にかかるドリー設定グループに含まれるカメラ設定メタデータの具体例を示す説明図である。

【図 6】

図 6 は、第 1 の実施形態にかかるメタデータフォーマットを説明するための説明図である。

【図 7】

図 7 は、第 1 の実施形態にかかる撮像装置の構成を示すブロック図である。

【図 8】

図 8 は、第 1 の実施形態にかかる映像信号にメタデータを付加する態様を説明するための説明図である。

【図 9】

図 9 は、第 1 の実施形態にかかるカメラコントロールユニットの構成を示すブロック図である。

【図 1 0】

図 1 0 は、第 1 の実施形態にかかるメタデータ付加装置の構成を示すブロック図である。

【図 1 1】

図 1 1 は、第 1 の実施形態にかかるビデオテープレコーダの構成を示すブロック図である。

【図 1 2】

図 1 2 は、第 1 の実施形態にかかるメタデータ合成装置の構成を示すブロック図である。

【図 1 3】

図 1 3 は、第 1 の実施形態にかかる映像記録方法を説明するためのタイミングチャートである。

【図 1 4】

図 1 4 は、第 1 の実施形態にかかる撮像装置の表示部に表示された撮影収録中のリターン映像の具体例を示す説明図である。

【図 1 5】

図 1 5 は、第 1 の実施形態にかかる撮像装置の表示部に表示された収録後のリターン映像の具体例を示す説明図である。

【図 1 6】

図 1 6 は、第 2 の実施形態にかかるメタデータ表示システムの概略的な構成を示すブロック図である。

【図 1 7】

図 1 7 は、変更例 1 にかかるメタデータ表示システムの概略的な構成を示すブロック図である。

【図 1 8】

図 1 8 は、変更例 2 にかかるメタデータ表示システムの概略的な構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

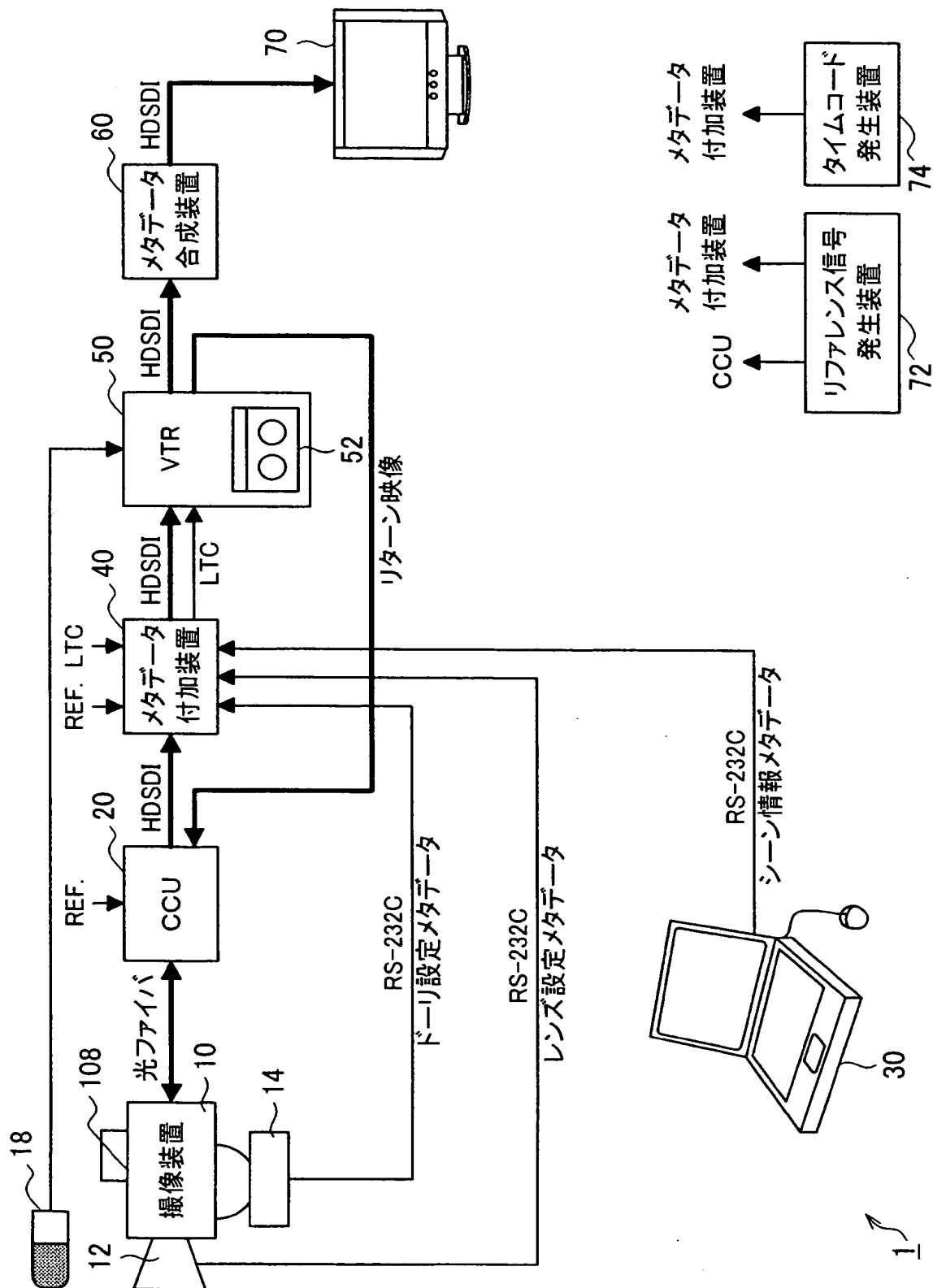
1 : メタデータ表示システム

1 0 : 撮像装置

- 1 2 : レンズ装置
- 1 4 : ドーリ装置
- 1 8 : 集音装置
- 2 0 : カメラコントロールユニット
- 3 0 : メタデータ入力用端末装置
- 4 0 : メタデータ付加装置
- 5 0 : ビデオテープレコーダ
- 5 2 : ビデオテープ
- 6 0 : メタデータ合成装置
- 7 0 : 表示装置
- 1 0 4 : 撮像部
- 1 0 8 : 表示部
- 1 1 0 : カメラ設定メタデータ生成部
- 1 1 2 : メタデータ付加部
- 1 2 6 : レンズ設定メタデータ生成部
- 1 4 4 : ドーリ設定メタデータ生成部
- 4 0 3 : メタデータバッファメモリ
- 4 0 6 : メタデータパッキング部
- 4 0 8 : メタデータエンコーダ
- 4 1 0 : メタデータ挿入部
- 5 0 6 : 信号処理部
- 5 0 8 : メタデータデコーダ
- 5 1 4 : メタデータエンコーダ
- 6 0 6 : メタデータ抽出部
- 6 0 8 : メタデータデコーダ
- 6 1 0 : メタデータ映像生成部
- 6 1 2 : メタデータ映像合成部

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】

シーン情報グループ

項 目	データ量(バイト)	内 容
タイムコード	16	xx:xx:xx:xx
日付	4	2002.10.15
映像作品 題名	30	Moon Wars Episode V
撮影チーム番号	2	xxxx
シーン番号	2	0003
テイク番号	2	0017
ロール番号	2	0005
カメラマン	16	Bob Meyers
ディレクタ	16	Mikel Bush
プロデューサ	16	George Jhordan

【図3】

カメラ設定グループ

項 目	データ量(バイト)	内 容
カメラID	4	00010335
CHUスイッチ ON/OFF	1	ON=1,OFF=2
CCU ID	4	00010750
フィルタ設定	2	5(A,B,C,D,E)×5(1,2,3,4,5)
シャッタスピード	1	xxxx (1/100/125/250/500/1000/2000)
ゲイン	1	M-90～+99
ECS機能 ON/OFF	2	ON=1,OFF=2
ガンマ(マスター)	2	xxx
ガンマ(ユーザ設定)	1	xxx
バリアブルフレームレート	1	23.98～30P
映像信号 白レベル	6	R/G/B-99～+99
映像信号 黒レベル	8	R/G/B/M-99～+99
ディテールレベル	2	-99～+99
ニースポイント	2	-99～+99
ニースロープ	2	-99～+99
レコーダステータス	1	23.98～30P

【図 4】

レンズ設定グループ

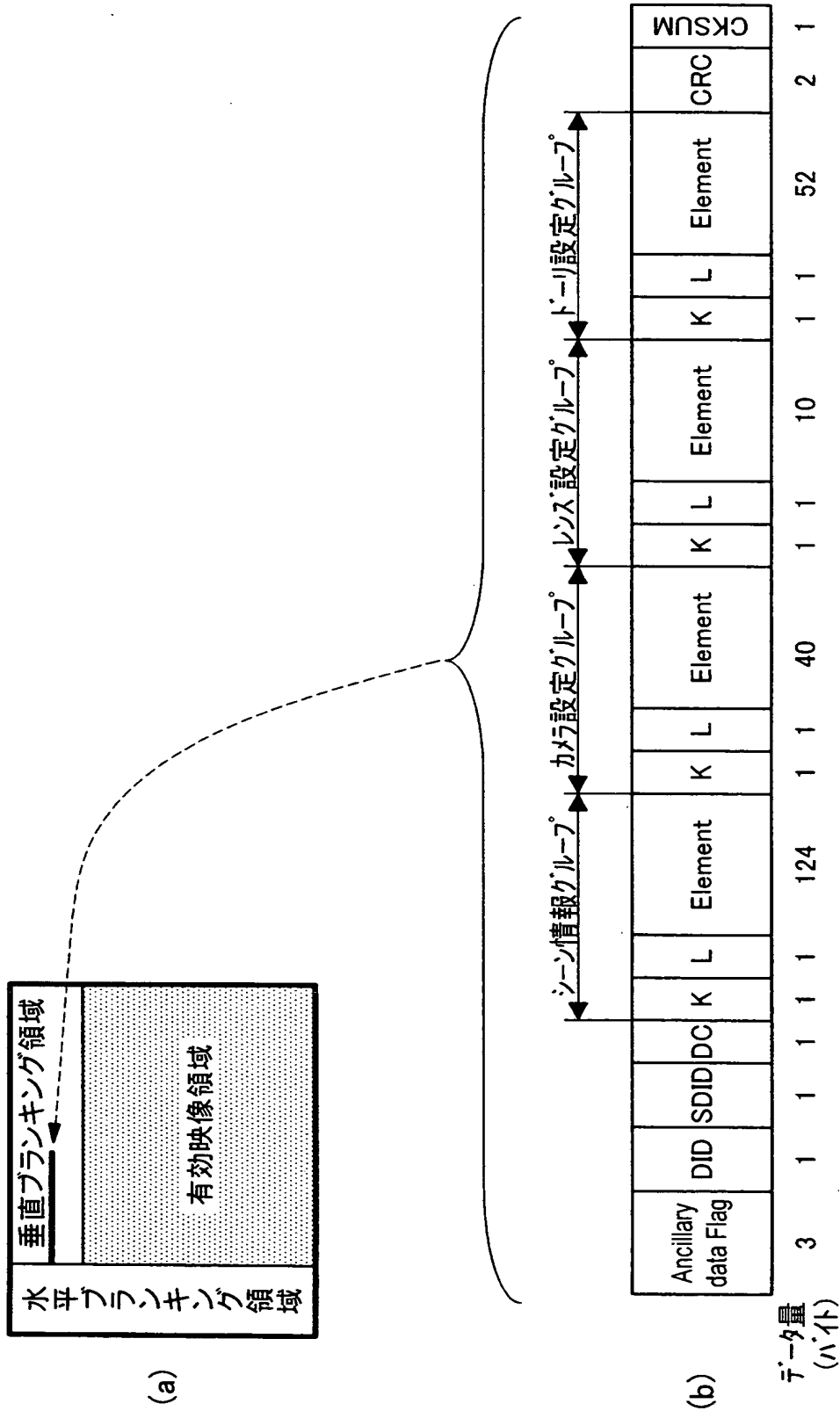
項 目	データ量(バイト)	内 容
ズーム	2	7.8~144 xxxx
フォーカス	2	1~∞ xxxx
アイリス	2	C~1.9 xxxx
レンズID	4	00010335

【図 5】

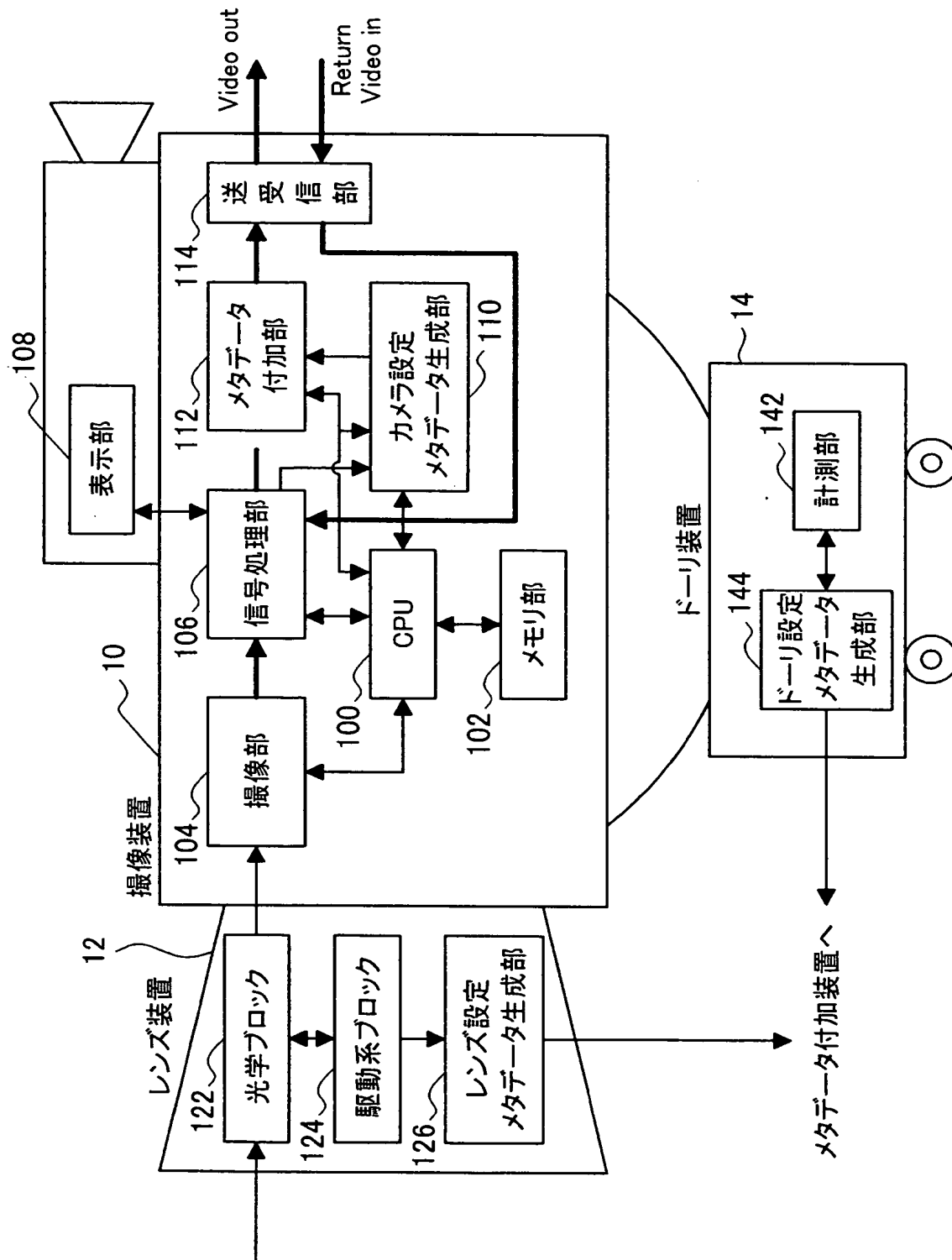
ドリー設定グループ

項 目	データ量(バイト)	内 容
GPS	12	xx:xx:xx/yy/hh
移動方向	4	xx'xx'xx"アングル
移動スピード	4	xx(m/s)
カメラ方向	Pan(Z軸方向)	320°
	Tilt(Y軸方向)	±35°
	Roll(X軸方向)	±35°
ドリー高さ	2	xxx(m)
ドリーID	4	00010335

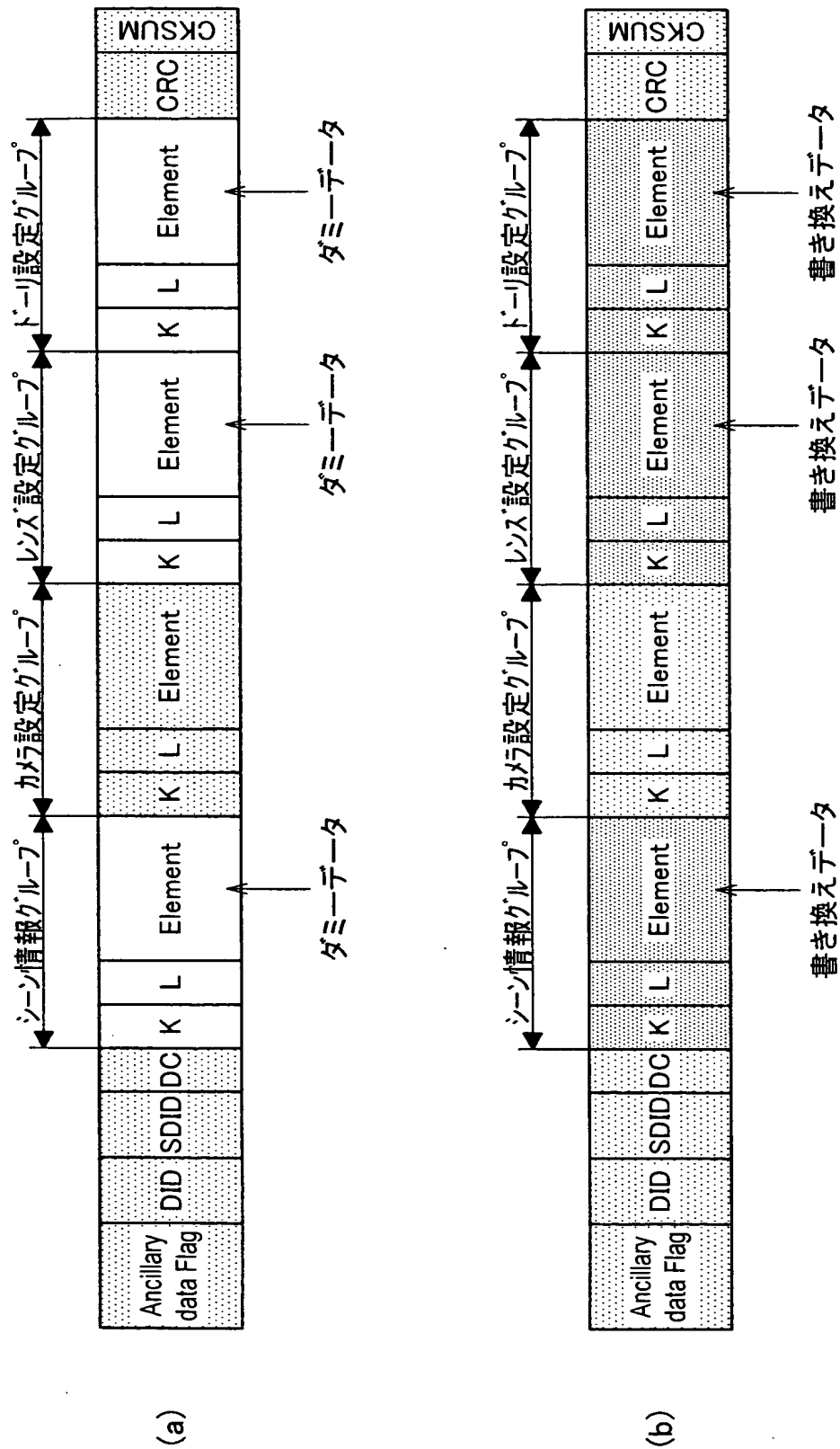
【図 6】



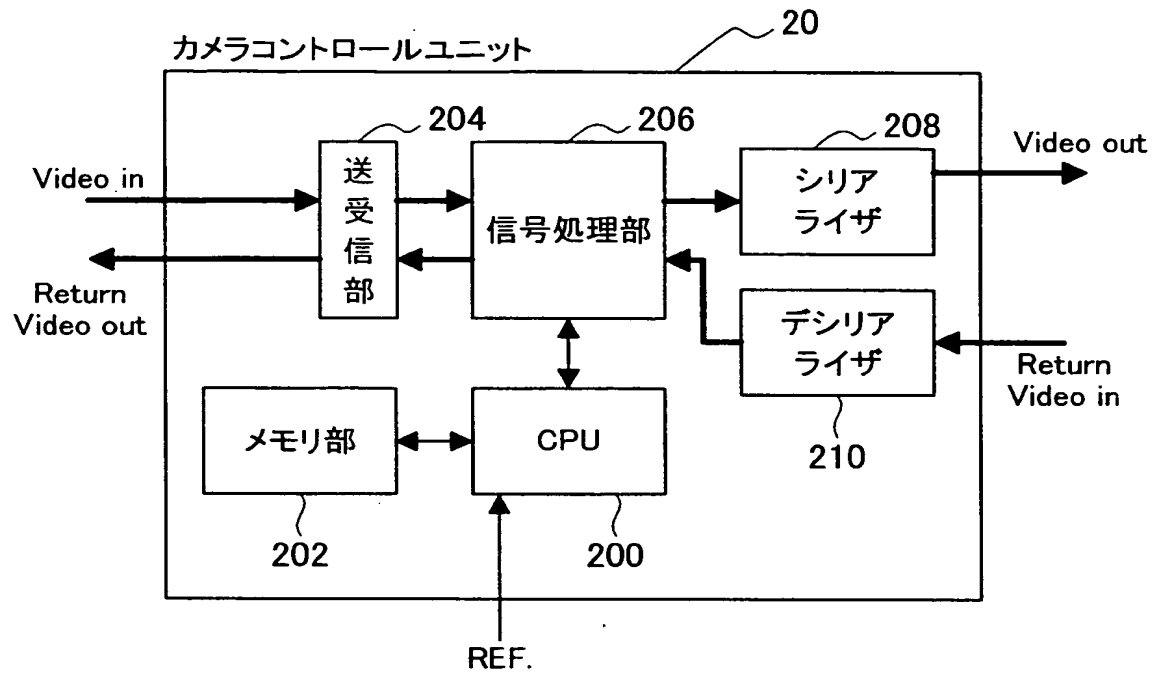
【図 7】



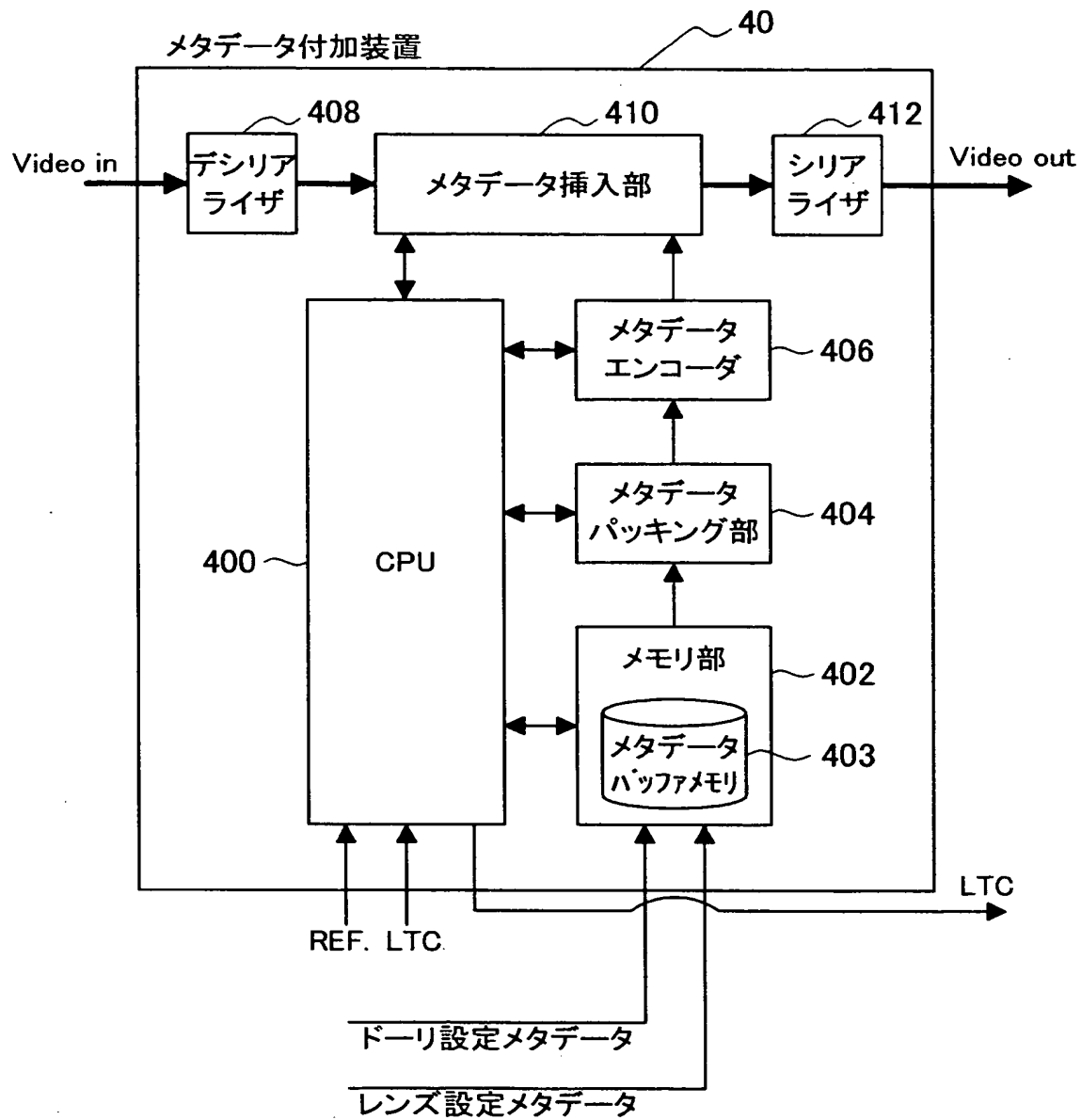
【図 8】



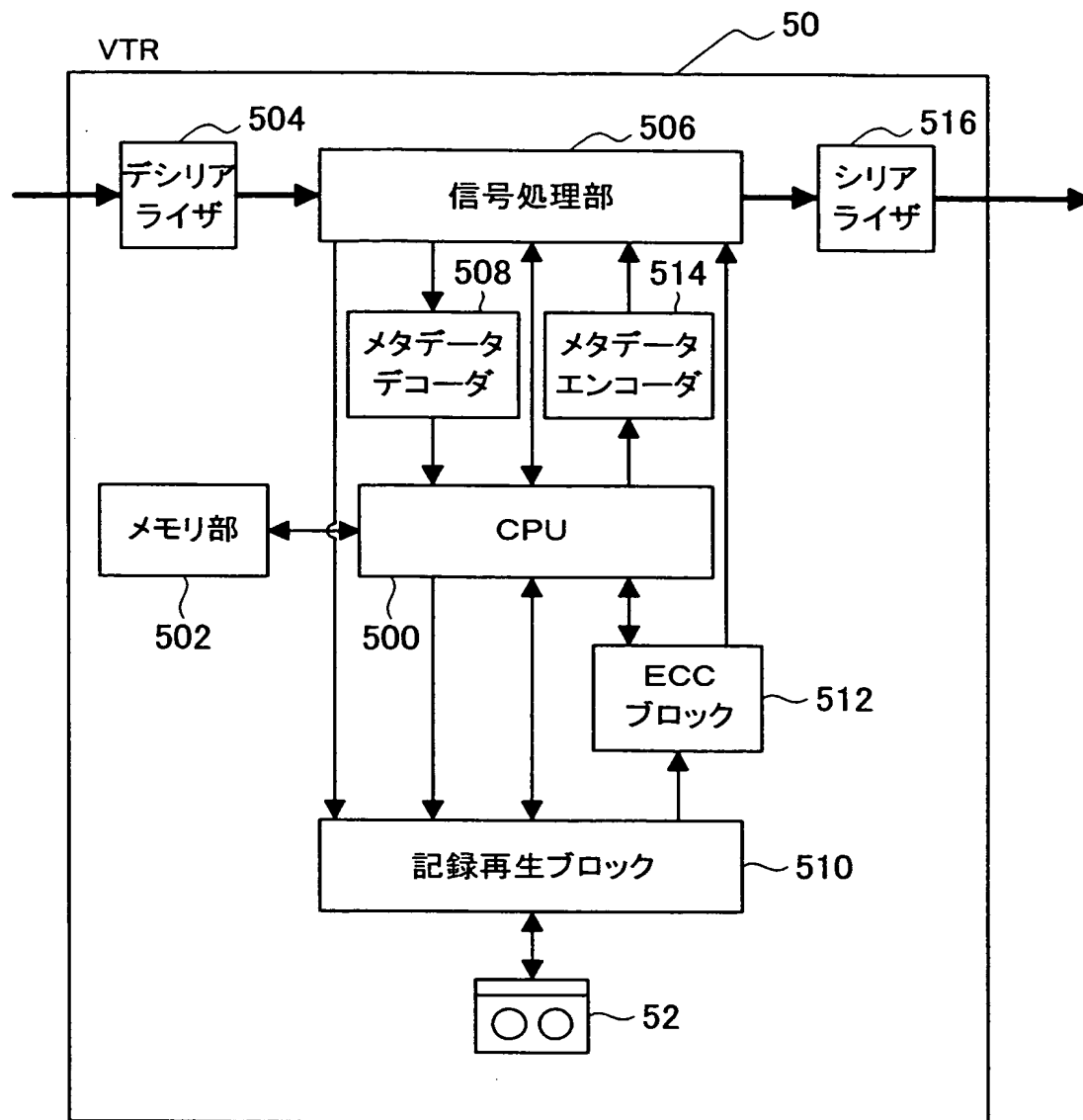
【図 9】



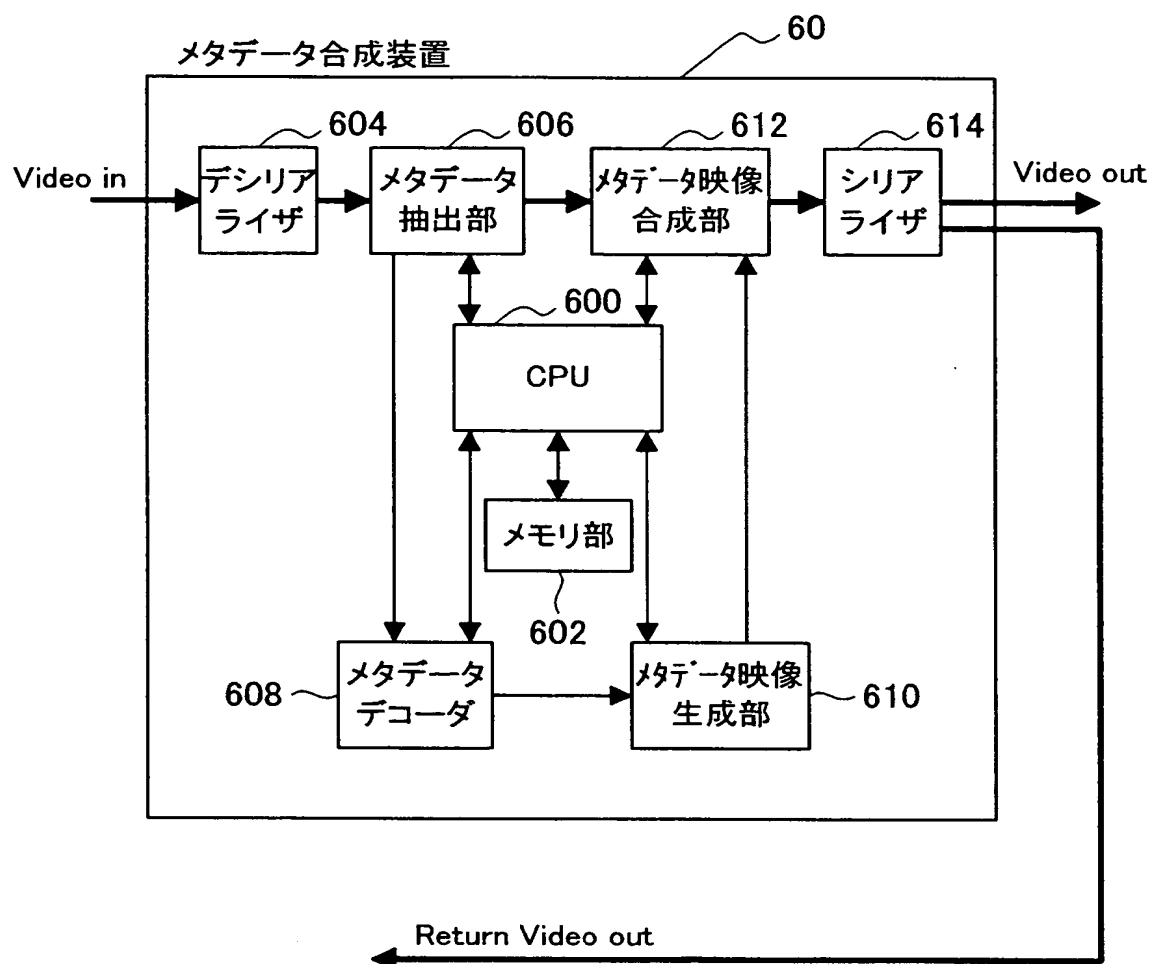
【図 10】



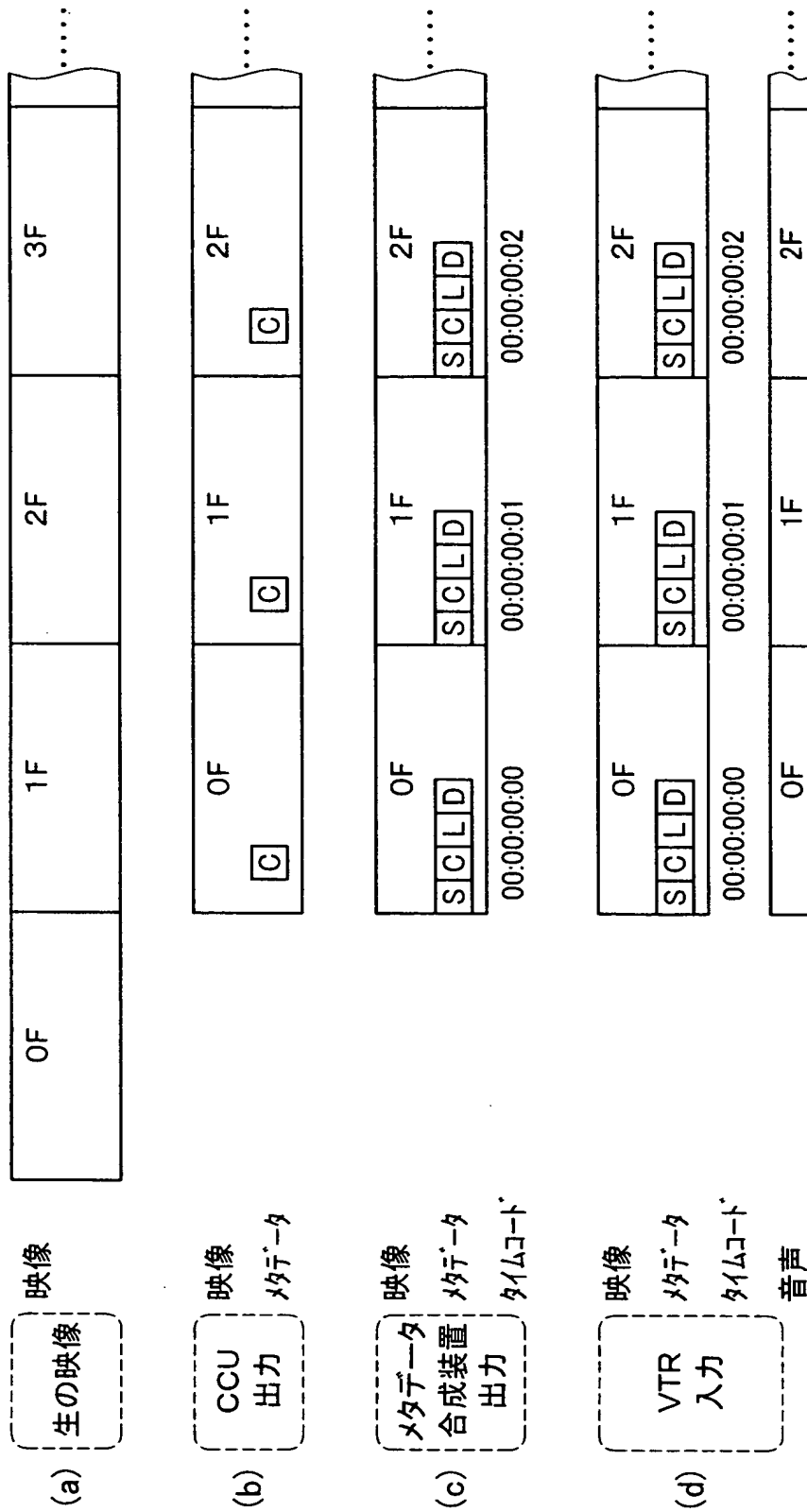
【図 11】



【図 12】



【図 13】



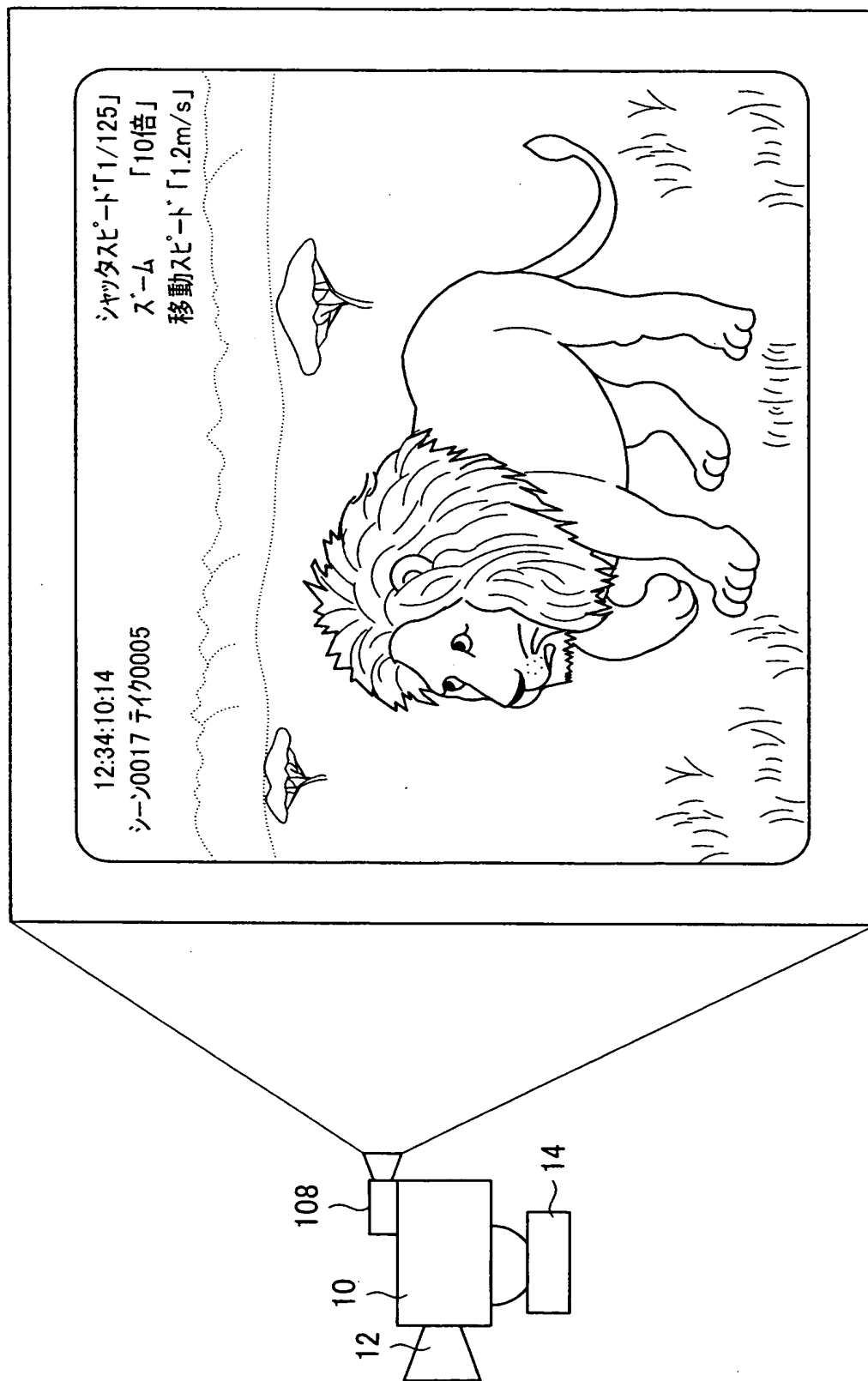
[C]: カメラ設定メタデータ [L]: レンズ設定メタデータ

[S]: シーン情報メタデータ [D]: ドーリ設定メタデータ

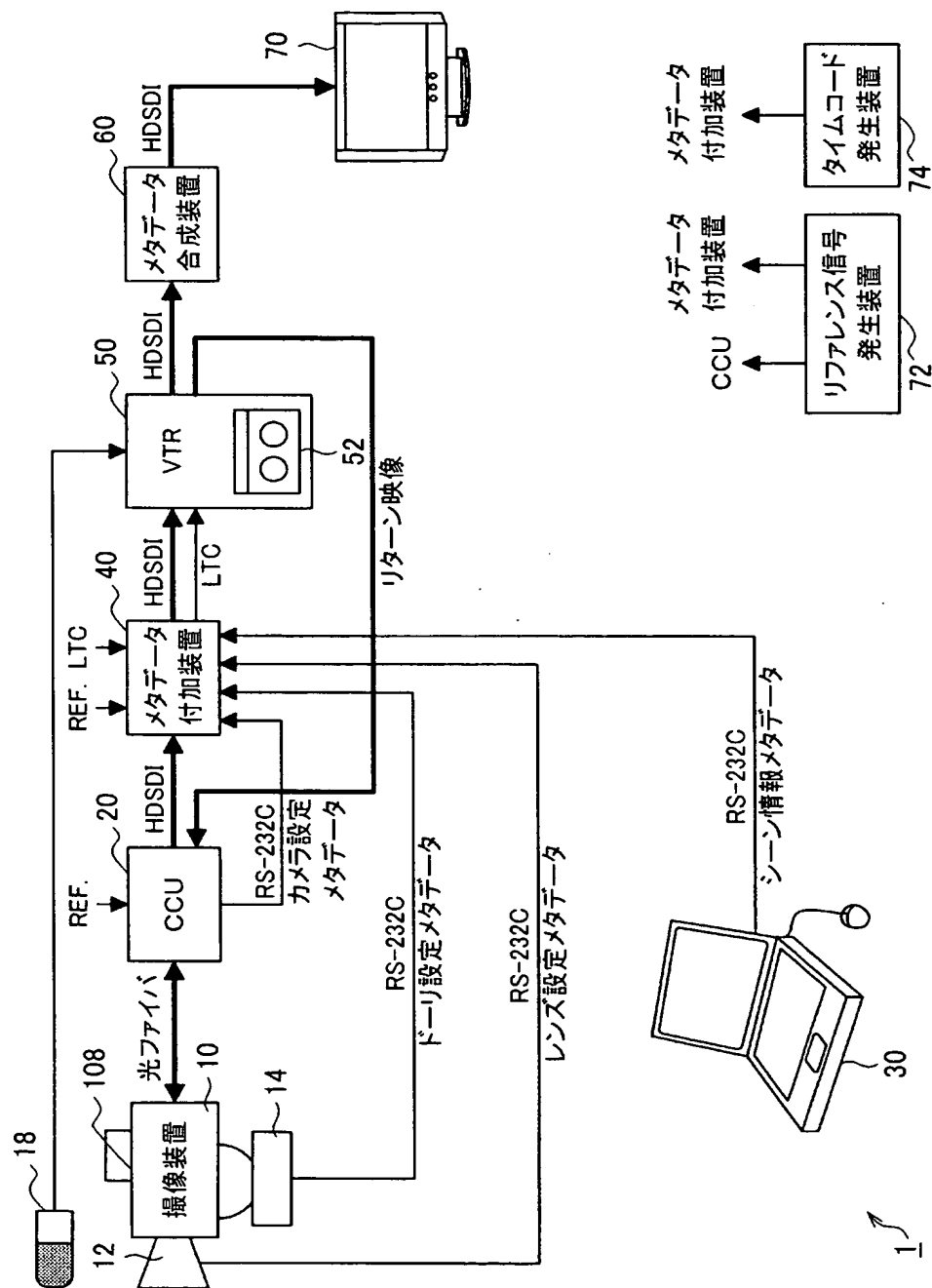
【図 14】



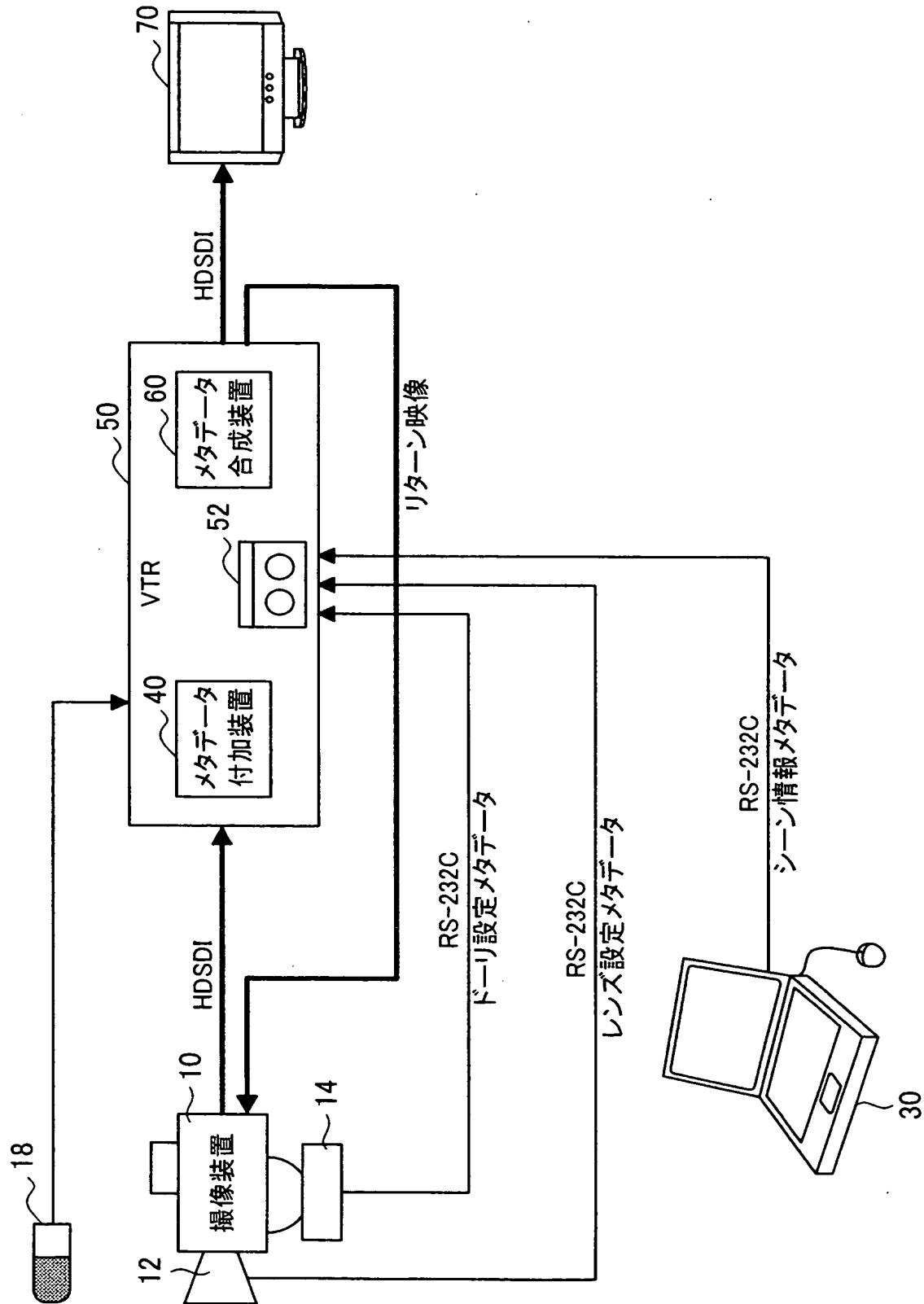
【図 15】



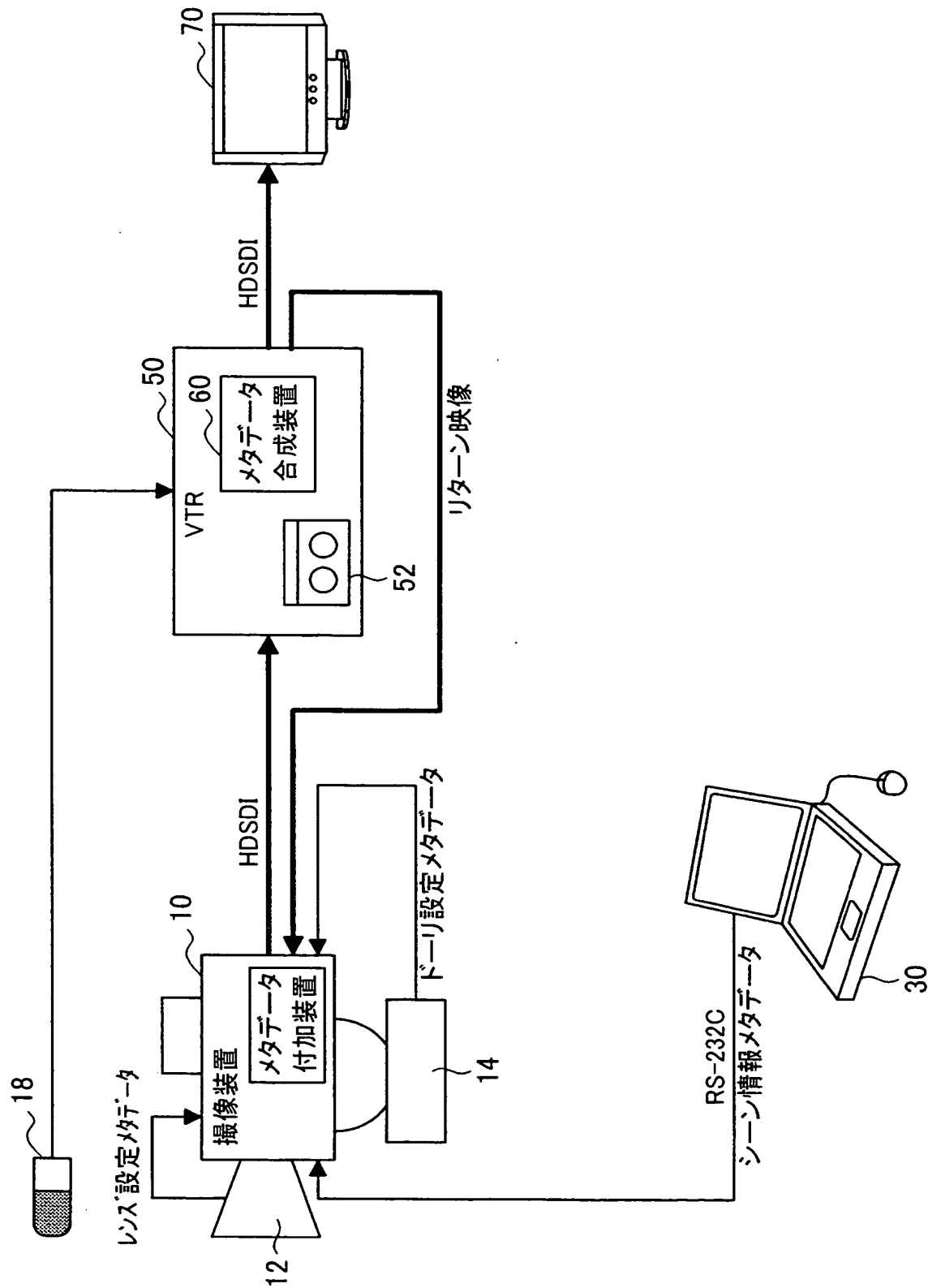
【図 16】



【図 17】



【図 18】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 撮影した映像素材に関連するメタデータを、当該映像素材とともに同期させて表示することが可能なメタデータ表示システムを提供すること。

【解決手段】 撮像装置 10 が生成した映像信号に関連するメタデータを表示するメタデータ表示システム 1 が提供される。このメタデータ表示システム 1 は、メタデータがフレーム単位で付加された映像信号から、メタデータの少なくとも一部を抽出して、映像信号に合成する、メタデータ合成装置 60 と；メタデータが合成された映像信号を表示する、表示装置 70、108 を備える。かかる構成により、当該映像信号に付加されているメタデータの一部を抽出して、映像データに変換し、当該映像信号に対してフレーム単位で多重することができる。このため、表示装置 70、108 は、撮影された映像に同期させて、対応するメタデータを同時に表示することができる。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 0 1 8 3 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 1 8 5]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

氏 名

ソニー株式会社